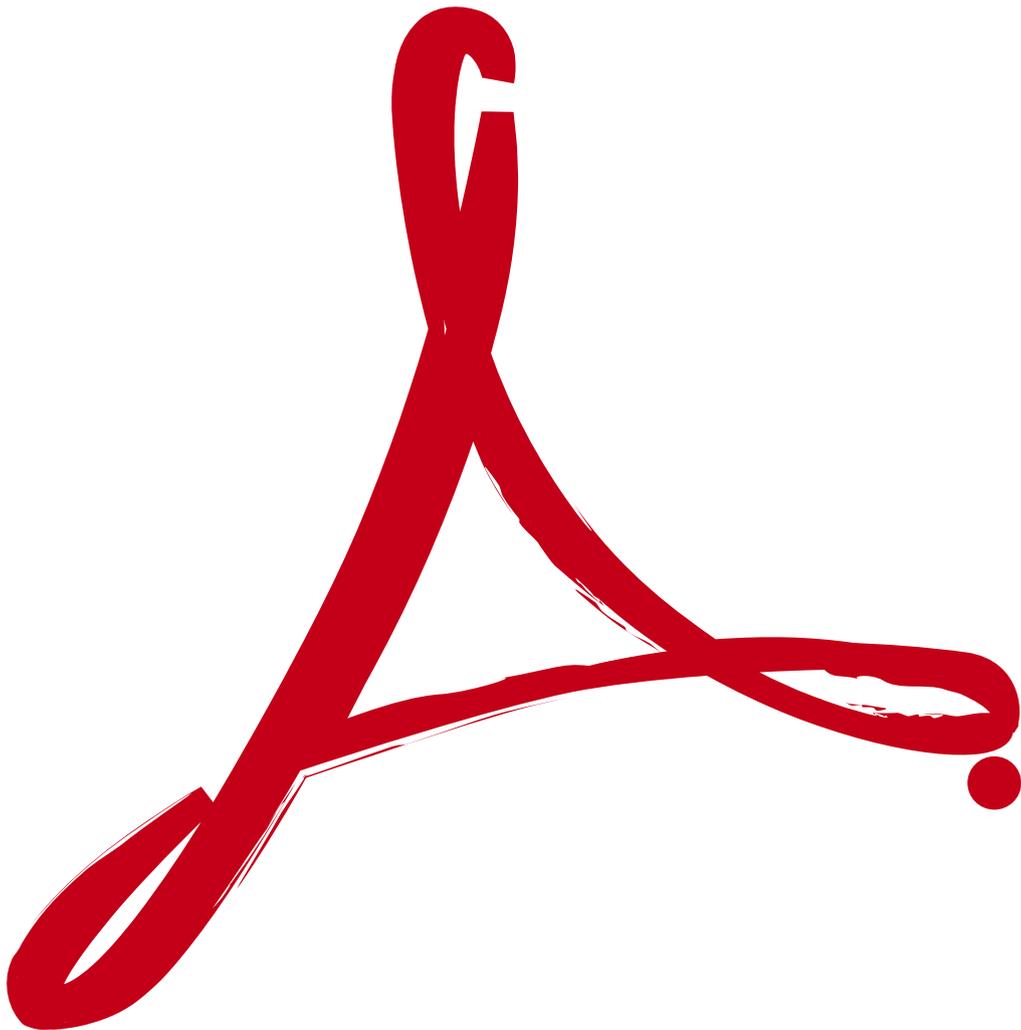


これがわかれば PDF 出力で困らない

Acrobat 7.0 Pro プリフライト徹底解析講座

～これならわかる、使えるプリフライトプロファイルの仕様と作り方～



incunabula

第一章 プリフライトの使い方と仕組み

7.0 になってプリフライトはどう変わったか	6
プリフライトを実行して結果を見る	8
プリフライトのレポートと注釈を作成する	16
プリフライトプロファイルを手軽に編集する	18
プリフライトプロファイルを詳細に編集する	26
プリフライトプロファイルの書き出しと取り込み	30
プリフライトプロファイルの要約を作成する	32
プリフライトドロップレットを作成する	34
プリフライト環境設定で出力インテントをカスタマイズ	36

第二章 デフォルト印刷用プリフライトプロファイル

PDF/X-1a 準拠のプリフライトプロファイル	42
PDF/X-3 準拠のプリフライトプロファイル	52
Web オフセットのプリフライトプロファイル	54
シートフィードオフセットのプリフライトプロファイル	62
デジタルプレスのプリフライトプロファイル	68
新聞広告のプリフライトプロファイル	70
雑誌広告のプリフライトプロファイル	72

第三章 プリフライト編集で作成する CMYK 実践プロファイル 7

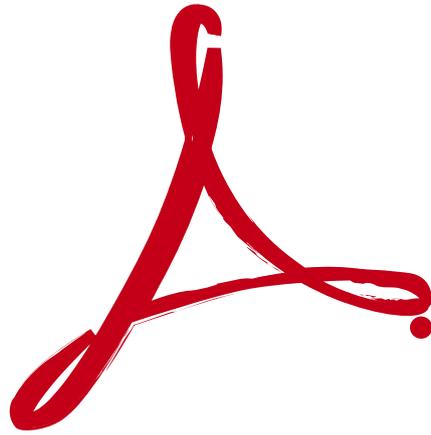
商業オフセット印刷のための実践プロファイルの作り方	76
[文書] ウィンドウを設定する	77
[ページ] ウィンドウを設定する	78
[画像] ウィンドウを設定する	79
[カラー] ウィンドウを設定する	80
[フォント] ウィンドウを設定する	81
[レンダリング] ウィンドウを設定する	82
[PDF/X に準拠] ウィンドウを設定する	83

第四章 カスタムチェックで追加するプリフライト規則

カスタムチェックで規則を追加する	86
カラースペースに関するプリフライト規則を作成する	87
画像に関するプリフライト規則を作成する	88
フォントに関するプリフライト規則を作成する	89
グラフィックスに関するプリフライト規則を作成する	90
ページ情報に関するプリフライト規則を作成する	91

第五章 アプリケーションで異なるプリフライト規則

Illustrator のみに追加するプリフライト規則	94
InDesign のみに追加するプリフライト規則	95
QuarkXPress のみに追加するプリフライト規則	96
Windows の Word のみに追加するプリフライト規則	97



第一章

プリフライトの 使い方と仕組み

- 7.0 になってプリフライトはどう変わったか
 - プリフライトを実行して結果を見る
 - プリフライトのレポートと注釈を作成する
 - プリフライトプロファイルを手軽に編集する
 - プリフライトプロファイルを詳細に編集する
 - プリフライトプロファイルの書き出しと取り込み
 - プリフライトプロファイルの要約を作成する
 - プリフライトドロップレットを作成する
 - プリフライト環境設定で出カインテントをカスタマイズ
-

第一章 プリフライトの使い方と仕組み

7.0 になってプリフライトはどう変わったか

Acrobat のプリフライトは 6.0 から 7.0 になって、大きく変貌しました。より強力になったのです。6.0 のプリフライト機能は

- プリフライト解析
- レポート作成
- 解析結果を注釈として追加
- プリフライト編集機能
- プリフライト検証機能
- PDF/X 変換機能

に分類することができました。7.0 ではそれに追加された新機能として

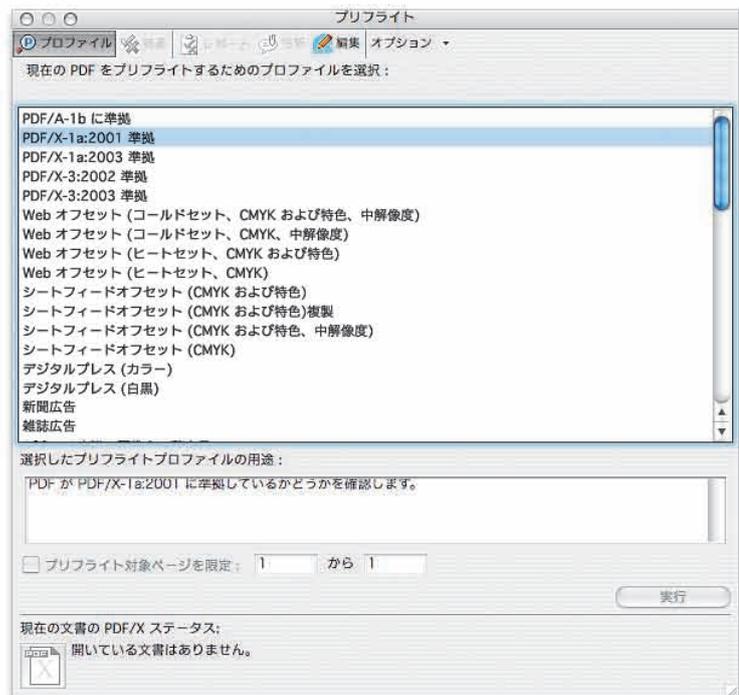
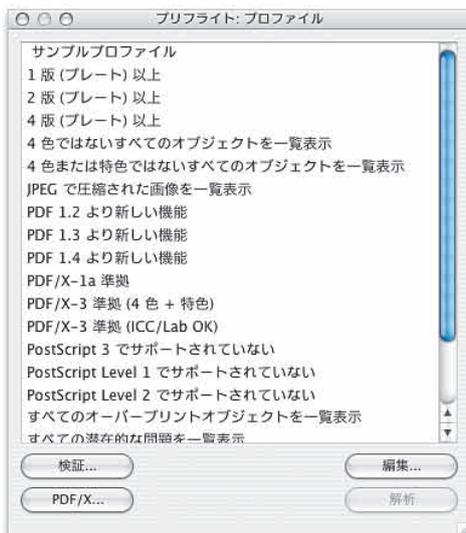
- プリフライト編集（簡易版）
- ドロップレット作成

があります。

6.0 と 7.0 のプリフライトウィンドウを比較する

Acrobat 6.0 Professional

Acrobat 7.0 Professional



7.0 のプリフライトはボタン類が整理され、プロファイルの説明が表示されるようになっています。また、ページ指定が可能になり、PDF/X かどうかが一瞥でわかるようになっています。

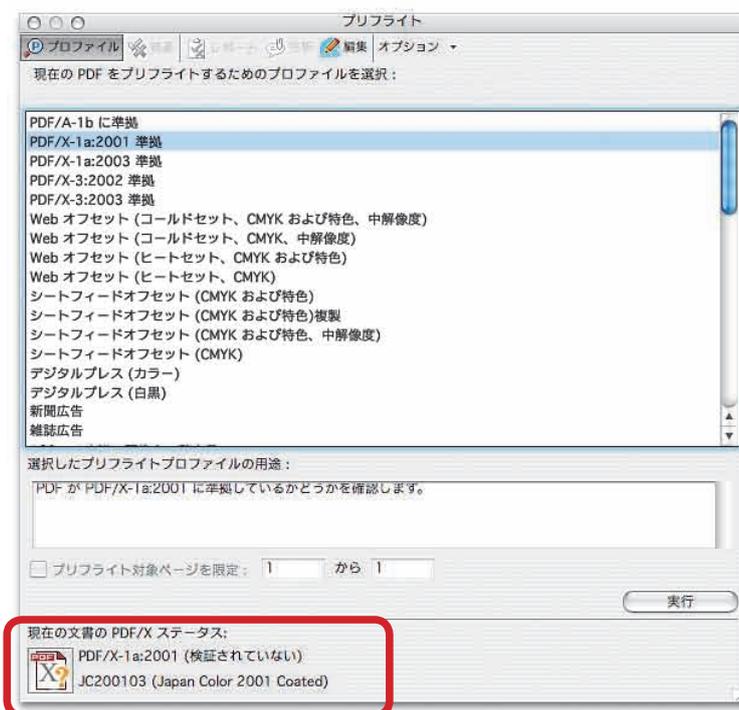
ただし、6.0 にあった検証機能はありません。6.0 のプリフライト検証は、プリフライトを解析したのち、検証スタンプを追加し、解析に使用したプリフライトプロファイルを添付するものです。7.0 では、6.0 の検証スタンプで追加したプロファイルは認識できません。

7.0 のプリフライトウィンドウでは、プロファイルをリストするだけでなく、プロファイルの説明も同時に表示できるようになりました。カスタマイズしたプロファイルを使う場合、詳細な情報をプリフライトでウィンドウで確認できます。

また、[プリフライト対象ページを限定] というチェックボックスが追加されています。ここでプリフライトするページを指定することができます。ページ数が多く、変更ページがわかっているときは、対象ページを特定してプリフライトを実行できます。

[現在の文書の PDF/X ステータス] では、プリフライトしなくても、開いている文書が PDF/X であるかどうかを確認できます。PDF/X の場合は、PDF/X であると表示されます。PDF のバージョンも表示されます。

PDF/X を開くと準拠レベルが表示される



7.0 のプリフライトはボタン類が整理され、プロファイルの説明が表示されるようになっています。また、ページ指定が可能になり、PDF/X かどうかが一瞥でわかるようになっています。なお、[プリフライト対象ページを限定] は複数ページの PDF を開くとアクティブになります。

第一章 プリフライトの使い方と仕組み

プリフライトを実行して結果を見る

プリフライトを行うには、[現在の PDF をプリフライトするためのプロファイルを選択:] でプリフライトプロファイルを選択し、[実行] ボタンを押します。プリフライト規則に合致しないものがあれば、プリフライト結果にリストされます。

プリフライト結果では、[概要] として、PDF の情報がリストされます。[概要] では

文書情報

出カインテント

レイヤー

埋め込みプロファイル

カラースペース

フォント

画像

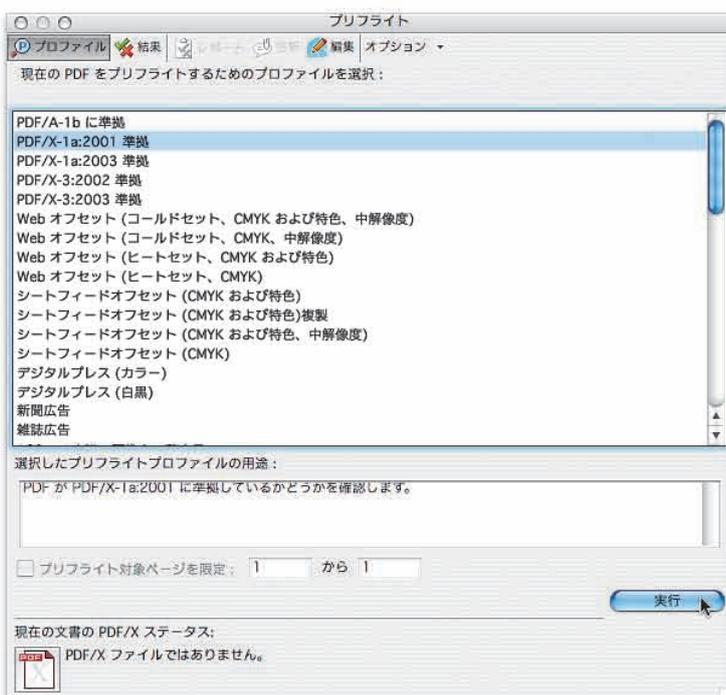
グラフィック状態プロパティ

スムーズシェーディング

フォームの XObjects

を個別に確認できます。

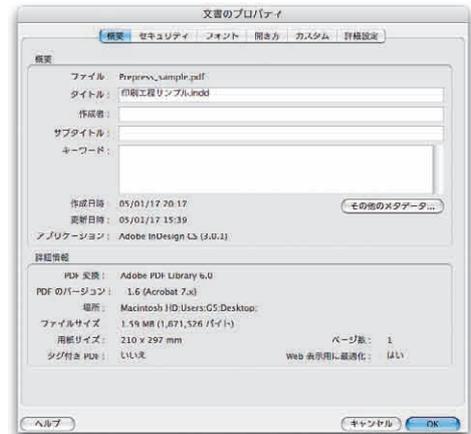
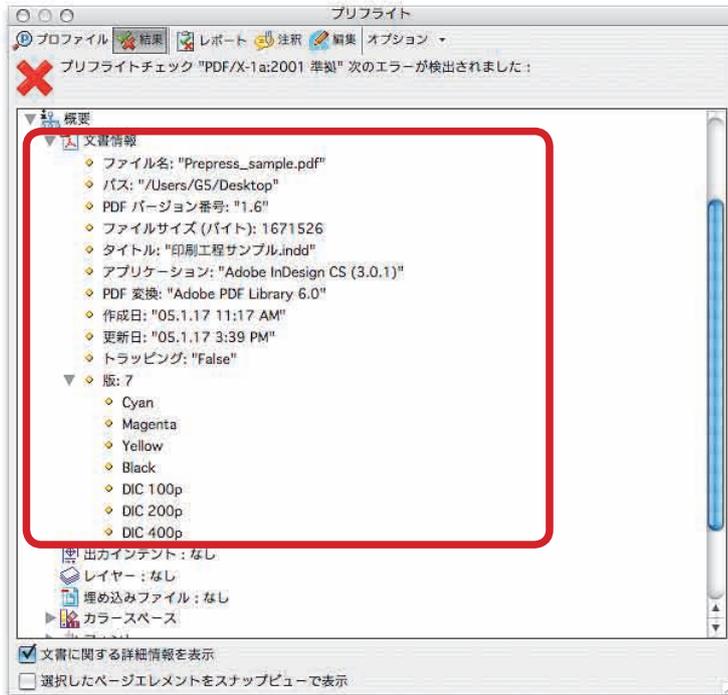
プロファイルを選択して [実行] ボタンを押す



プリフライトするには、PDF を Acrobat で開き、プリフライトプロファイルを選択して、[実行] ボタンをクリックします。PDF が解析され、プリフライト結果が表示されます。プリフライト結果では、プリフライト規則でヒットしたものだけでなく、PDF 内の情報が [概要] として確認できます。

〔文書情報〕では、ファイル名、PDF バージョン、PDF 変換エンジン、トラッピングの有無などが表示されます。タイトルと作成者、サブタイトルは、〔文書のプロパティ〕の〔概要〕で入力したものが表示されます。また PDF で使われている版数もリストされます。

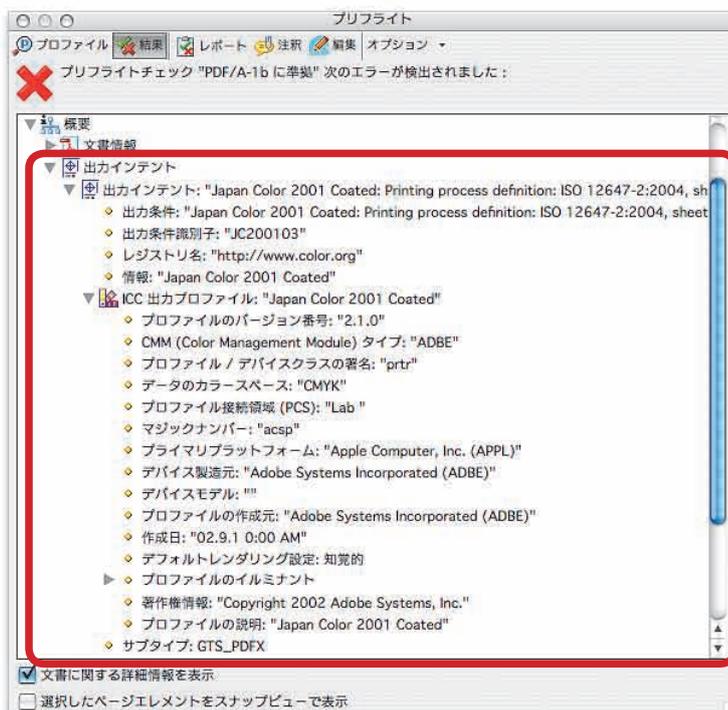
プリフライト結果で見る〔概要〕の〔文書情報〕



〔文書情報〕では〔文書のプロパティ〕の「概要」にある情報が主にリストされます。また、PDF がすべて RGB であっても、「版」には CMYK がリストされます。

〔出力インテント〕では、PDF/X が指定している出力インテントプロファイルを表記します。ここでは指定されている ICC プロファイルの詳細な情報を確認することができます。

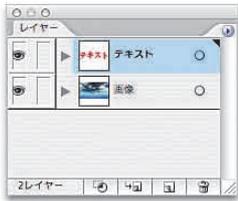
プリフライト結果で見る〔概要〕の〔出力インテント〕



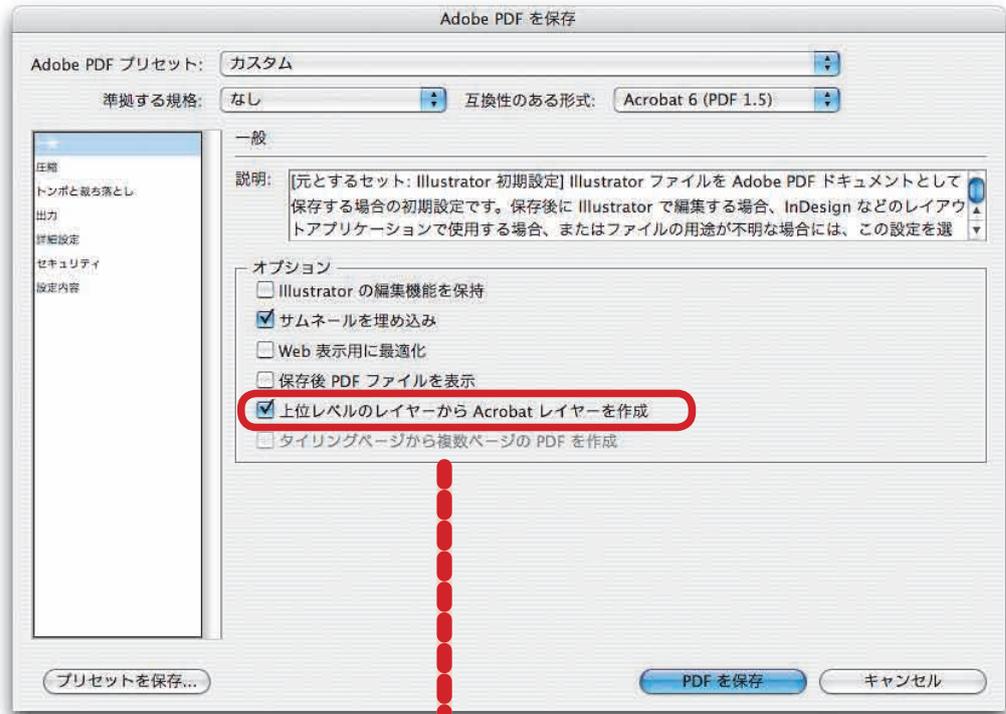
PDF/X ではない PDF では〔出力インテント〕は「なし」と表示されます。

[レイヤー]では、PDFのレイヤー情報を表示します。PDFレイヤーはAcrobat 6.0互換(PDF 1.5)以上で、InDesign CS以降やIllustrator CS以降で書き出せます。印刷用のPDFでは、使われることはまずありません。

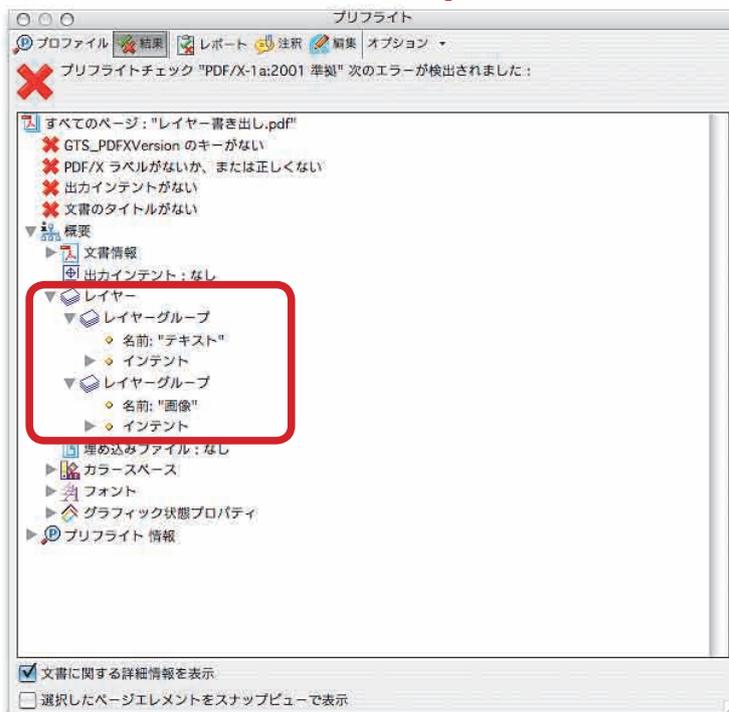
プリフライト結果で見る【概要】の【レイヤー】



↑ Illustratorのレイヤーパレット



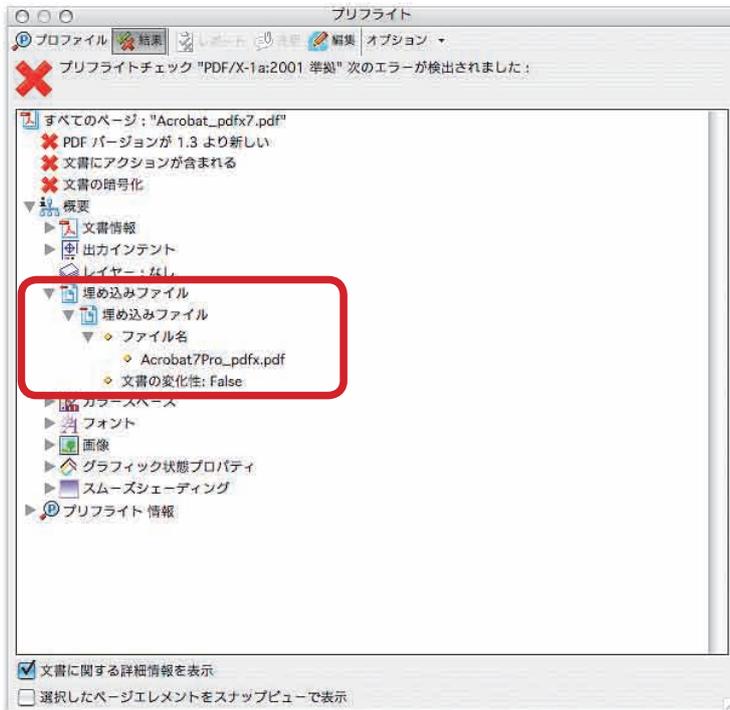
→ Illustrator CS2でのPDF保存ウィンドウ



InDesign CS以降やIllustrator CS以降で、互換性の表示で「Acrobat 6 (PDF 1.5)」以降を選択すると、「上位レベルのレイヤーから Acrobat レイヤーを生成」がアクティブになります。PDF保存してプリフライトすると、レイヤー名も反映されます。なお、IllustratorはPDF保存時に「Illustrator 編集機能を保持する」をチェックしないと、IllustratorでPDFを開いたときにレイヤー情報が再現されません。

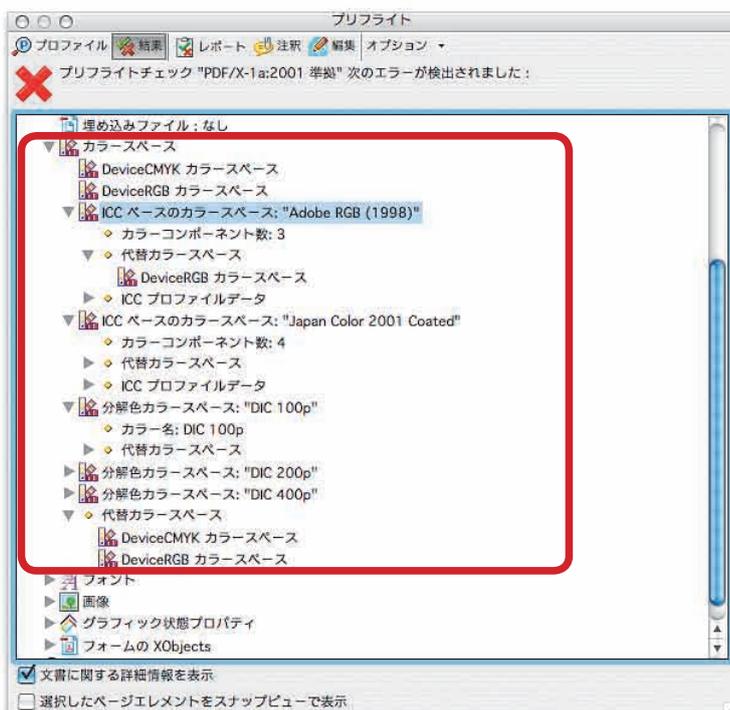
[埋め込みファイル] では、PDF に添付したファイルがリストされます。添付ファイル名を確認できます。ただし、印刷用ファイルが添付ファイルとして付けられることはあっても、添付ファイルを持つ PDF が印刷用の PDF である可能性はまずありません。

プリフライト結果で見る【概要】の【埋め込みファイル】



[カラースペース] では PDF で利用されているカラースペースがリストされます。[出力インテント] と同じように、指定されている ICC プロファイルの詳細な情報を確認することができます。

プリフライト結果で見る【概要】の【カラースペース】

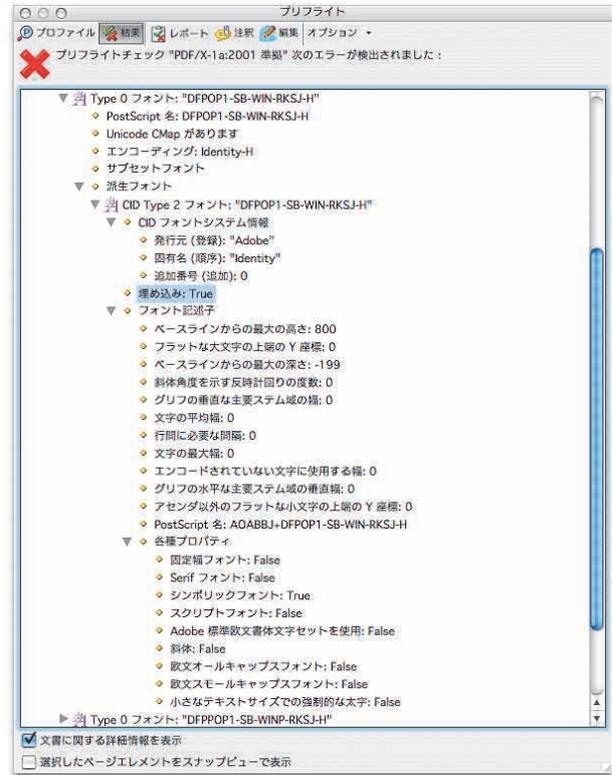


[カラースペース] では、デバイスカラーなのか、キャリブレーションカラーなのか、特色のような分解色カラーなのかがリストされます。そして、カラーコンポーネント数と代替カラースペースがリストされます。キャリブレーションカラーの場合は、ICC プロファイルのデータも確認できます。

[フォント] では PDF で使われているフォントがリストされます。埋め込まれているフォントも、埋め込まれていないフォントもリストされ、フォントの詳細がわかります。

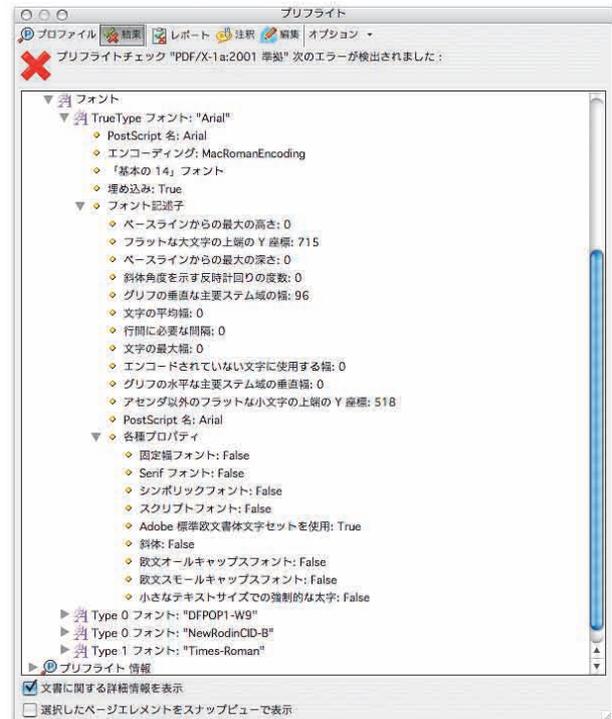
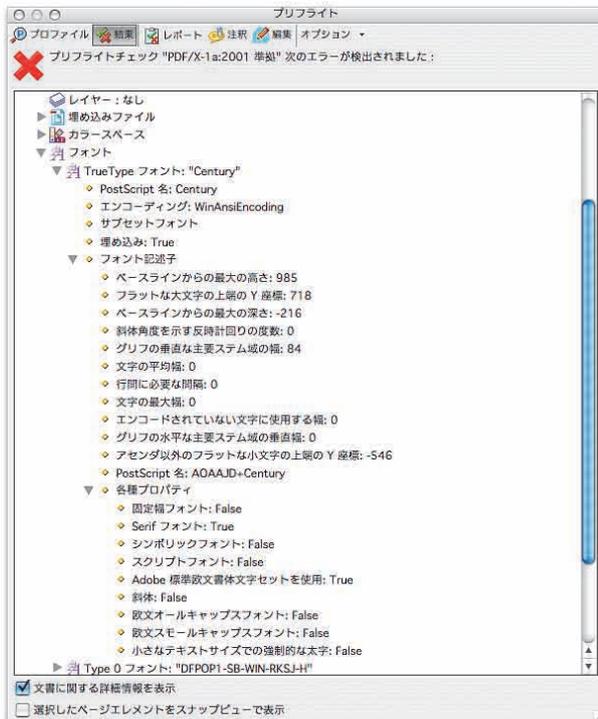
Windows の MS Word で作成した PDF を Mac OS X の Acrobat 7.0 で開く

フォントを埋め込まない (Illustrator 8.0 で保存) フォントを埋め込む (Word から Distiller で作成)



サブセット埋め込みの TrueType 欧文フォント

完全埋め込みの TrueType 欧文フォント

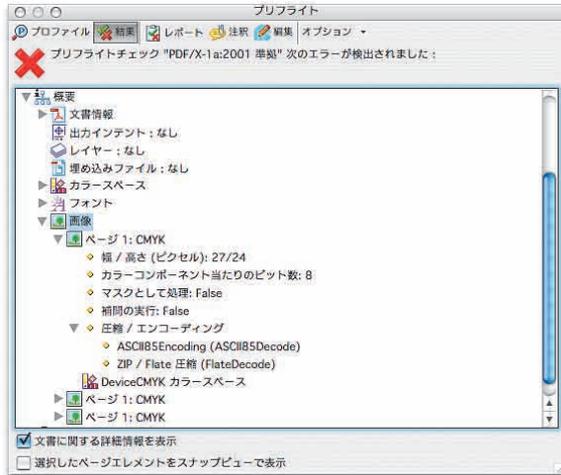


[フォント] では、PDF 内で使われているフォント毎に、PostScript 名とエンコーディングが確認できます。また、欧文フォントでは完全埋め込みが可能ですが、その場合は「埋め込み: True」となり、「サブセットフォント」ではなく「基本の 14」フォント」とリストされます。

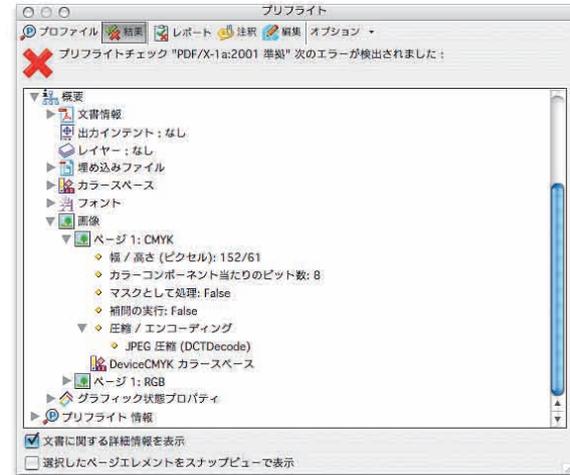
[画像] では、PDF に埋め込まれている画像がリストされます。画像のカラーモード、縦横のピクセル値、カラーコンポーネント当たりのビット数、圧縮の方法がリストされます。

プリフライト結果で見る [概要] の [画像]

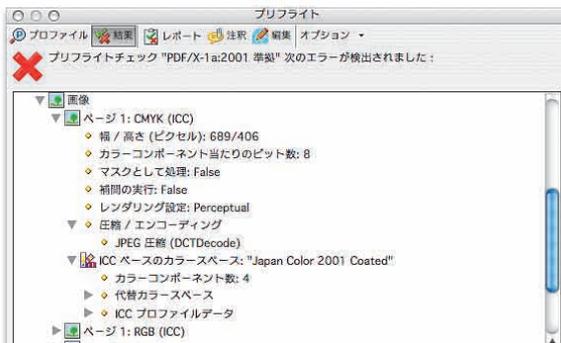
可逆圧縮 (ZIP) した画像の [概要]



非可逆圧縮 (JPEG) した画像の [概要]



キャリブレーション画像の [概要]

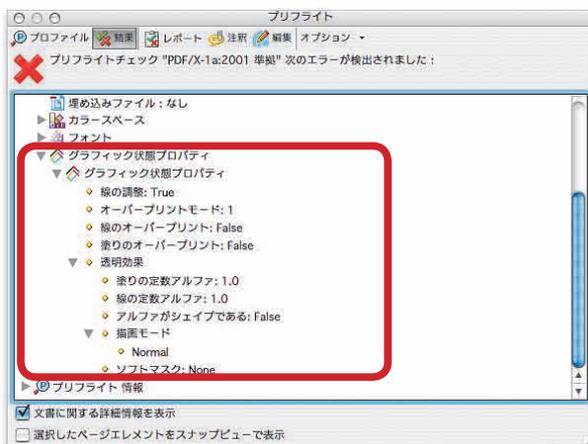


画像はページ毎に順番にリストされます。画像のピクセル数は表示されますが、1 インチ当たりの解像度は表示されません。キャリブレーションカラーの場合は、タイトルに (ICC) と追記されます。また、Photoshop で 16 ビット画像を作成し、PDF 保存すると、「カラーコンポーネント当たりのビット数」は「16」になります。

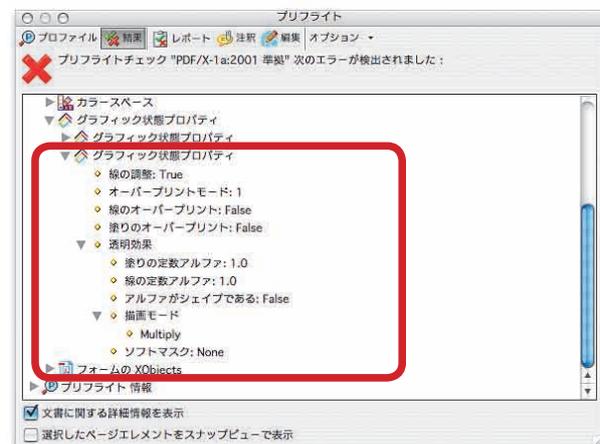
[グラフィック状態プロパティ] では、線と塗りオブジェクトのグラフィック状態をリストします。オーバープリントの有無や、透明効果の使用がここでわかります。

プリフライト結果で見る [概要] の [グラフィック状態プロパティ]

透明を指定しない Illustrator オブジェクト



「乗算」を指定した Illustrator オブジェクト

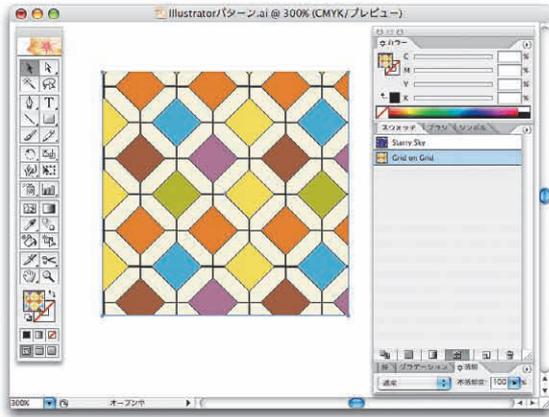


Illustrator の透明パレットで「乗算」を指定すると、描画モードが「Multiply」になります。また、Illustrator CS 以降では透明は [フォームの XObjects] で指定されます。

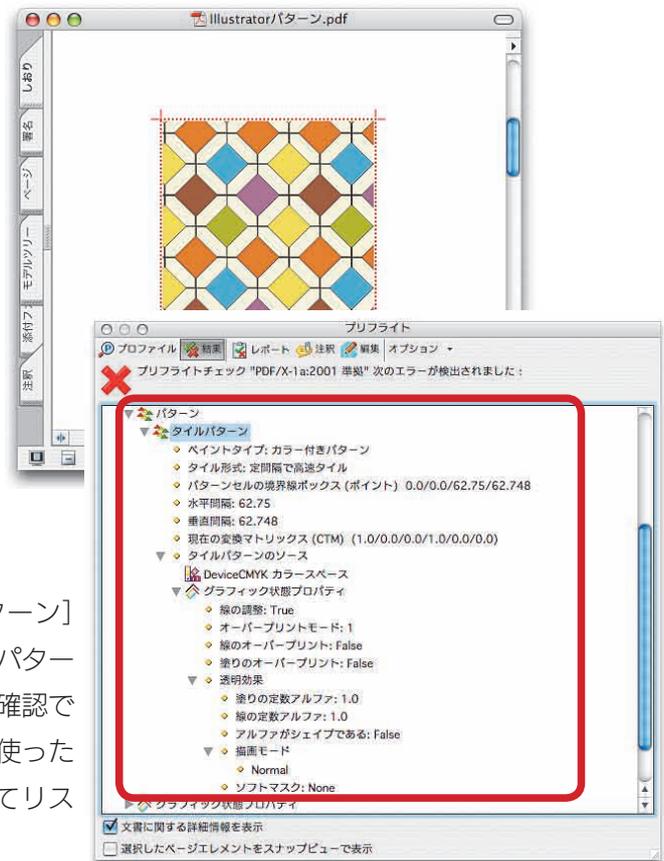
[パターン] は、Illustrator のパターンが使われているときにリストされます。スウォッチのパターンは [タイルパターン] になり、スムーズシェーディングは [スムーズシェーディングパターン] になります。

プリフライト結果で見る【概要】の【パターン】

Illustrator のパターンのみのスウォッチ



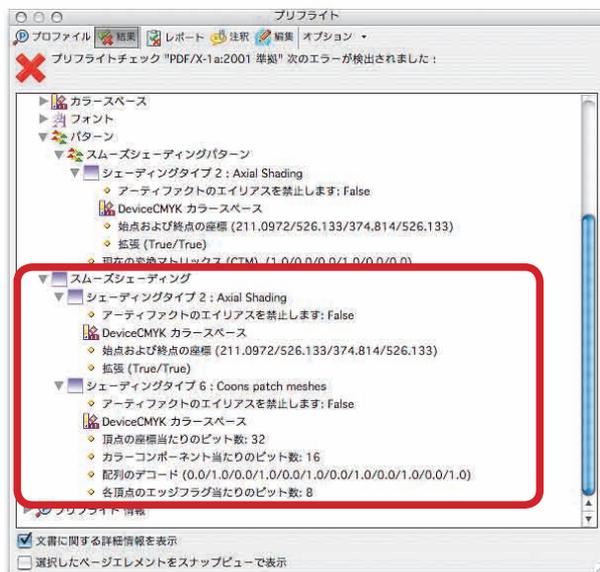
PDF 保存して Acrobat で開いたパターン



Illustrator のパターンは、PDF では [タイルパターン] になります。ただし、パターン名は反映されません。パターンのカラーモードやグラフィック状態プロパティも確認できます。また、スウォッチにあるグラデーションを使った場合も、[スムーズシェーディングパターン] としてリストされます。

[スムーズシェーディング] は、PDF 内にスムーズシェーディングのグラデーションやグラデーションメッシュオブジェクトがある場合のみにリストされます。Illustrator や InDesign のグラデーションは「Axial Shading」で、Illustrator のグラデーションメッシュは「Coons patch meshes」です。

プリフライト結果で見る【概要】の【スムーズシェーディング】

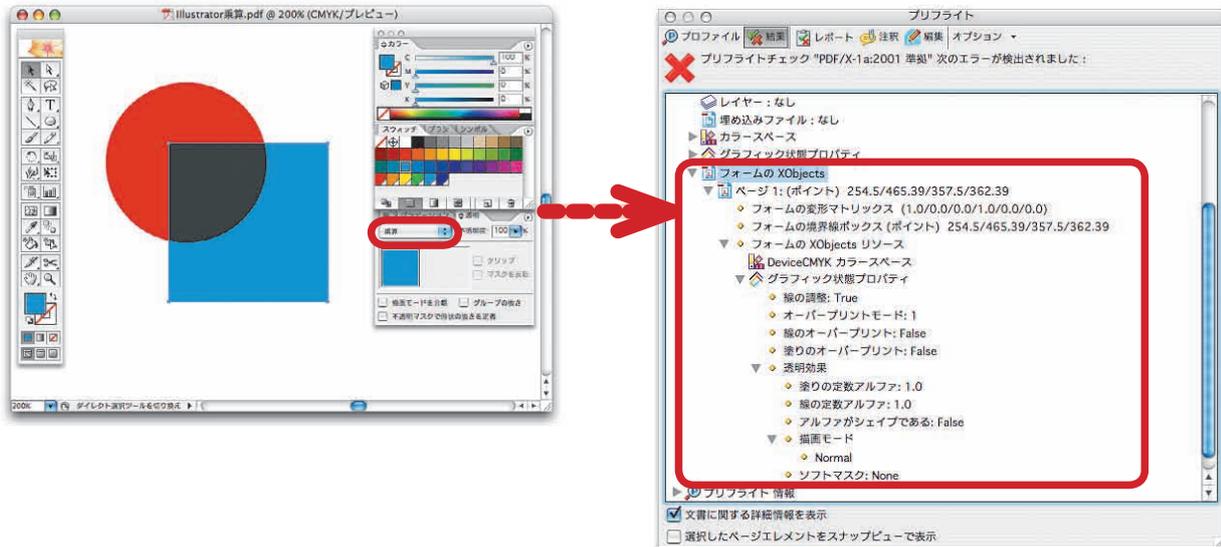


グラデーションでは、「始点および終点の座標」が表示されます。グラデーションメッシュでは「頂点の座標当たりのビット数」や「各頂点のエッジフラグ当たりのビット数」などがリストされます。

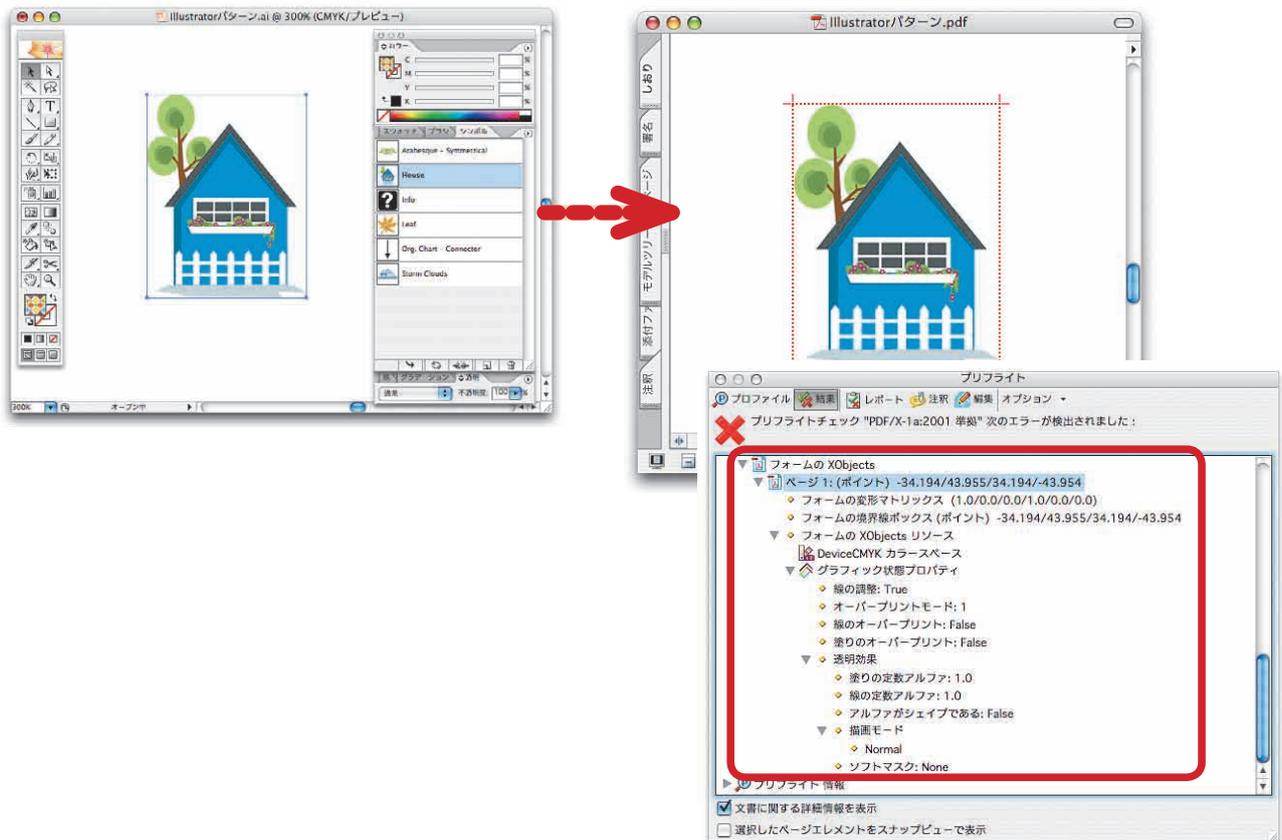
[フォームの XObjects] は、XObjects 形式で透明効果を利用した場合に使われます。Illustrator CS 以降や InDesign の透明は「フォームの XObjects」として記述されます。また、Illustrator で [シンボル] を利用したときもフォームの XObjects 形式として記述されます。

プリフライト結果で見る [概要] の [フォームの XObjects]

Illustrator で指定した [乗算] オブジェクト



Illustrator で指定した「シンボル」オブジェクト PDF 保存して Acrobat で開いたシンボル



[フォームの XObjects] では、該当するオブジェクトは単なる「アタリ」であることを示します。つまり実データではありません。実データは別に XObjects 形式として保持して、表示・印刷時にそれを適用するのです。そのため、透明オブジェクトは Acrobat の TouchUp ツールでコピーしてペーストすると、透明情報が失われます。なお、シンボルオブジェクトは TouchUp オブジェクトツールでコピーペーストできます。

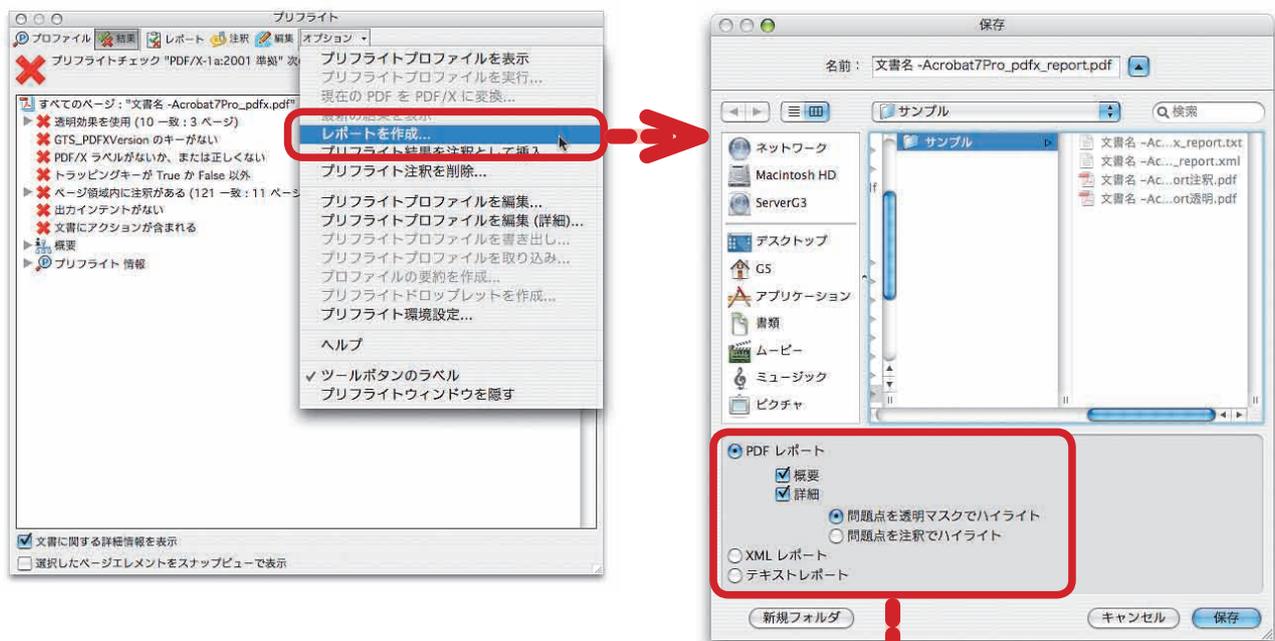
第一章 プリフライトの使い方と仕組み

プリフライトのレポートと注釈を作成する

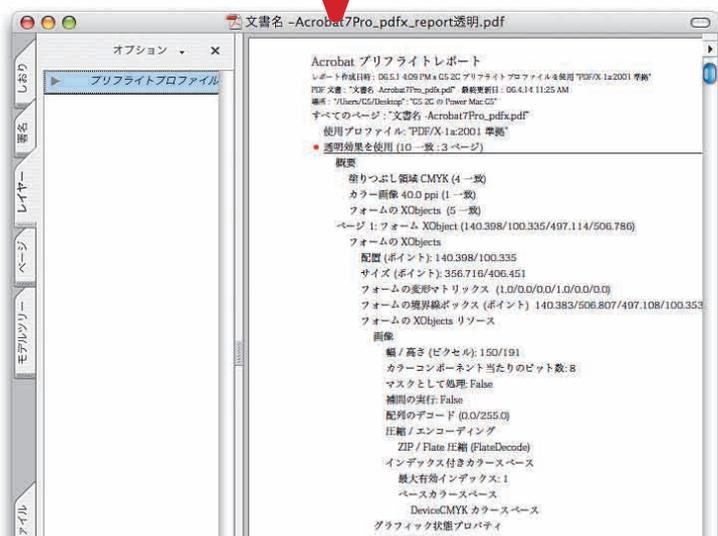
プリフライト結果はオプションメニューから「レポートを作成」を選択すれば、プリフライト結果のレポートが作成されます。レポートの種類はAcrobat 6.0 Proと同じで、「PDFレポート」「XMLレポート」「テキストレポート」の3種類です。

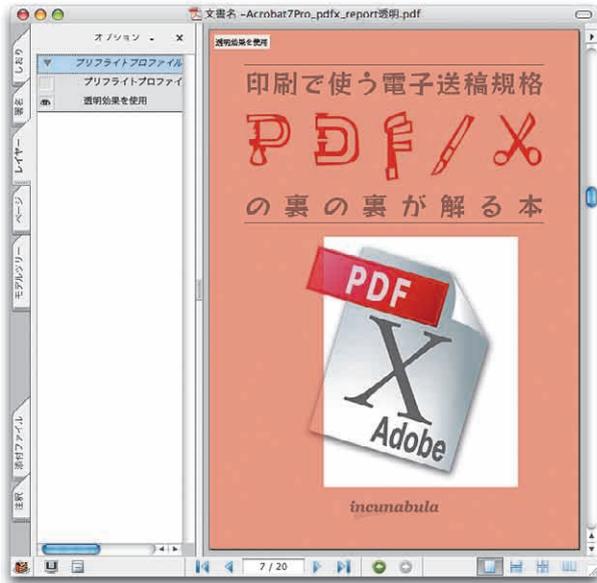
「PDFレポート」では、オリジナルのPDFの巻頭にレポートを記載したPDFが追加されます。さらに、レポート結果を各ページに反映させることができます。「問題点を透明マスクでハイライト」を選択すると、問題のあるページの左上に問題のあるプリフライト規則が表示され、問題のある部分がハイライトされます。

プリフライトで「レポートを作成」する



プリフライトを実行すると、プリフライト結果をレポートとして書き出すことができます。問題点を透明マスクとして確認するか、注釈として確認するかを選択します。透明マスクでは、オブジェクトの問題点毎にレイヤーが作成され、該当するオブジェクトのみがハイライトされます。



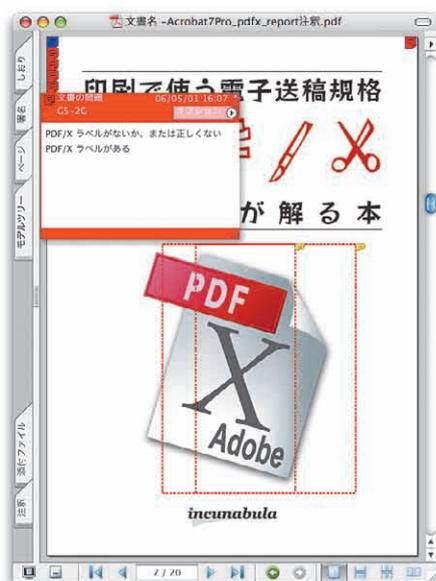
【問題点を透明マスクでハイライト】してレポートを作成する

レイヤーのプリフライトプロファイルを開くと、プリフライトでリストされた項目が表示されます。ページ全体に関わるものは「プリフライトプロファイルに基づくすべての問題」で一括りになります。透明効果のようなオブジェクトに関するものは、該当するページを開くと、その部分がハイライトされます。

ただし、問題点は別レイヤーとして追加されます。レイヤータブを開いて、[プリフライトプロファイル]を表示させるとプリフライト結果のリストが現れます。別レイヤーとしてリストされるものは、透明効果やトランスファ関数など、オブジェクトが含む問題点になります。

[問題点を注釈でハイライト]すると、ページ毎にプリフライトされた結果が注釈として各ページに追加されます。また、問題のある部分がハイライトされます。[問題点を透明マスクでハイライト]ではすべての問題点を各ページに反映できませんが、[問題点を注釈でハイライト]では、すべて結果を注釈として確認できます。

[XMLレポート]と[テキストレポート]は、レポートのみを書き出す方式です。プリフライトの問題点をXML形式で書き出す[XMLレポート]と、UNIXの文字コードで書き出す[テキストレポート]があります。

【問題点を注釈でハイライト】してレポートを作成する

オブジェクトに適用されない問題点は、各ページの右上と左上の隅にテキスト注釈として追加されます。オブジェクトに適用されるものは、オブジェクトにノートツールとして追加されています。

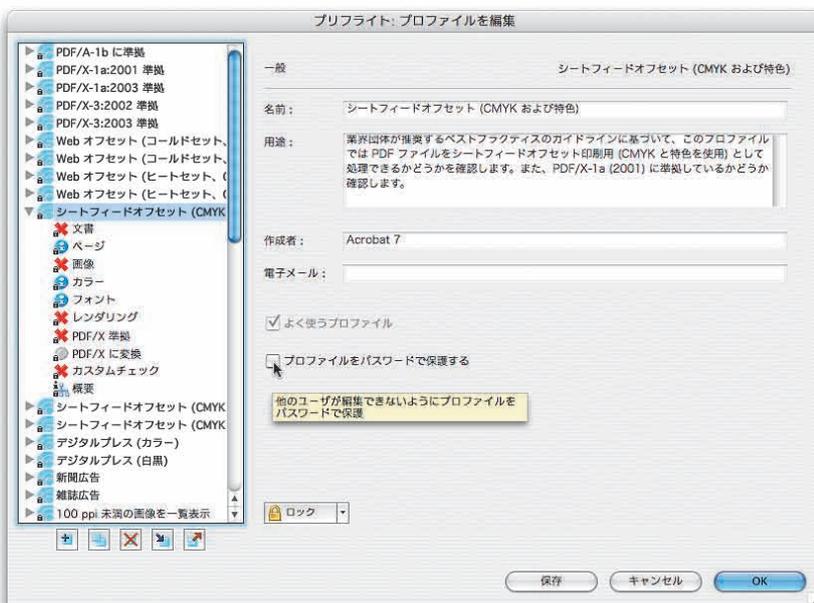
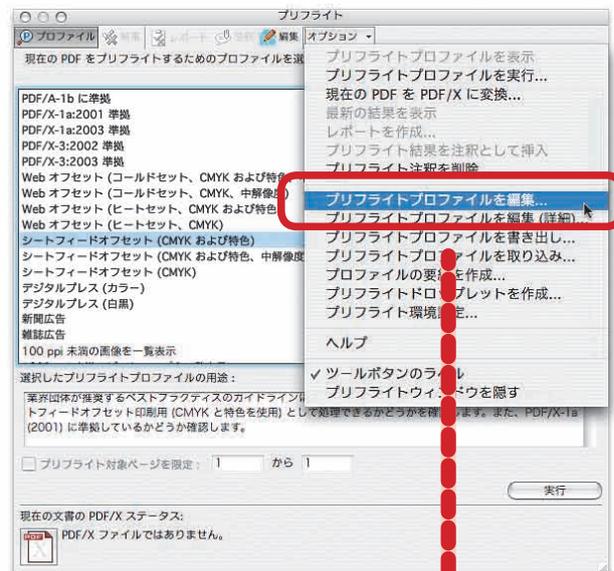
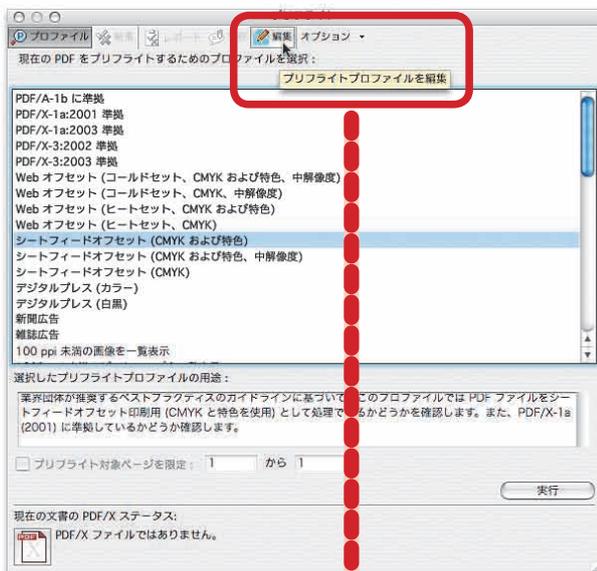
第一章 プリフライトの使い方と仕組み

プリフライトプロファイルを手軽に編集する

Acrobat 6.0 Pro ではプリフライトプロファイルの編集方法は1種類しかありませんでした。プリフライト条件を作成し、それらを and 検索してプリフライト規則を作成するのです。そしてプリフライト規則を束ねたものが、プリフライトプロファイルでした。

Acrobat 7.0 Pro では、プリフライトの編集方法は2種類あります。通常の [プリフライトプロファイルを編集する] と [プリフライトプロファイルを編集する (詳細)] です。6.0 のプリフライト編集は、[プリフライトプロファイルを編集する (詳細)] になります。

プリフライトウィンドウからプリフライトを編集する

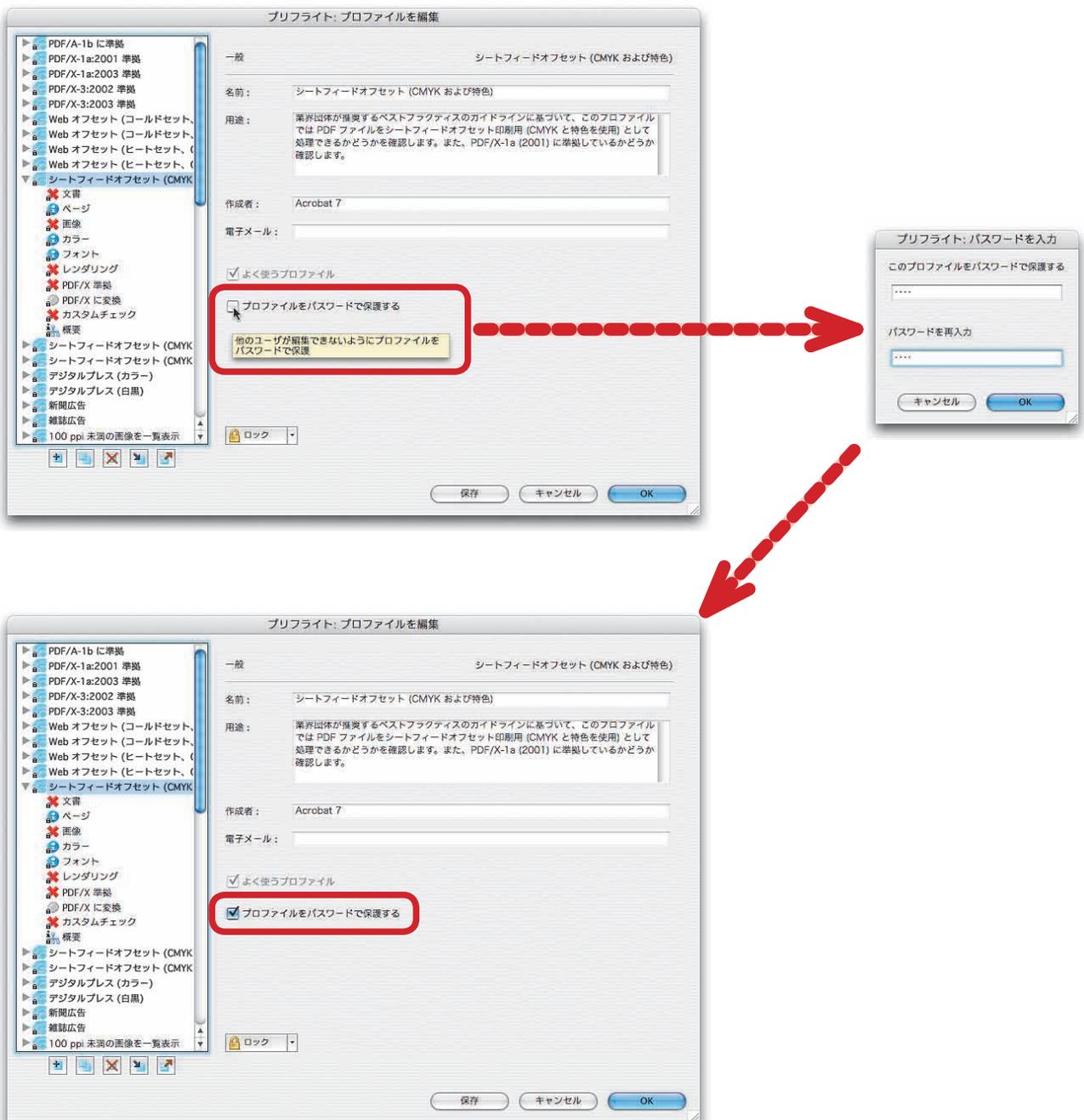


プリフライトの簡易編集はウィンドウ上部の [編集] ボタンをクリックするか、[オプション] から「プリフライトプロファイルを編集」をクリックします。そうすると、プリフライト編集ウィンドウが開きます。

プリフライトウィンドウの上部にある「編集」ボタンをクリックすると、通常の「プリフライトプロファイルを編集する」が開きます。この編集機能では、いままでプリフライト条件を作成しなければできなかった規則を各カテゴリーから選択するだけでプリフライトプロファイルの編集が可能になります。

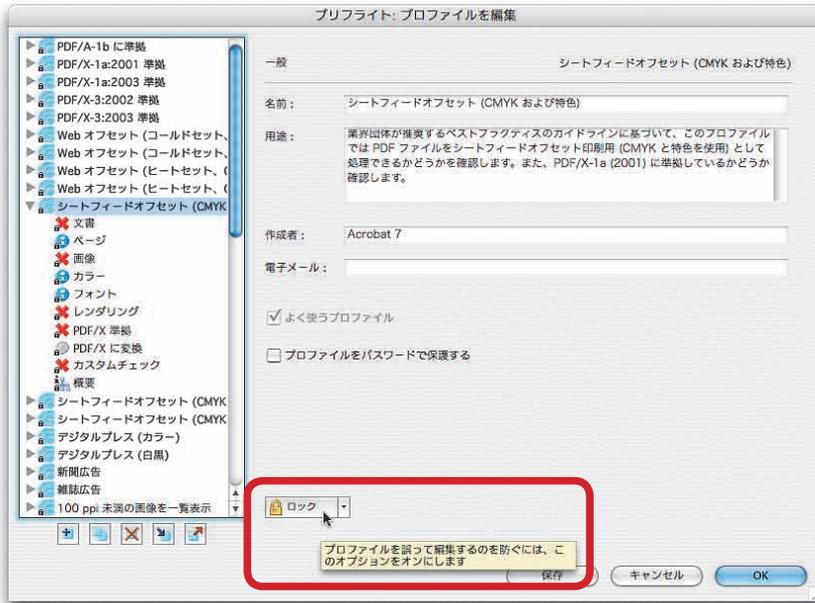
プロファイルを選択すると、一般ウィンドウで、プロファイル名と用途（プロファイルに付けられたコメント）が確認できます。「よく使うプロファイル」をチェックすると、プリフライトウィンドウでプロファイル名がボードになります。「プロファイルをパスワードで保護する」ことも可能です。

Windows の MS Word で作成した PDF を Mac OS X の Acrobat 7.0 で開く



プロファイルをパスワードで保護すると、プロファイルを再編集できなくなります。なお、ロックされたプロファイルは、いったんロックを解除してからパスワードを設定します。パスワードは書き出して読み込んだプロファイルにも適用されます。

プロファイルをロックを設定する



プロファイルにパスワードが設定されていない場合は、ロックの設定と解除はいつでもできます。ロックを解除しなければ、そのプロファイルに含まれているプリフライト規則やプリフライト条件を編集することはできません。ただし、デフォルトのプロファイルに含まれる規則や条件の中には、ロックを解除しても編集できないものがあります。編集できない規則や条件は詳細編集で網がけされているものです。

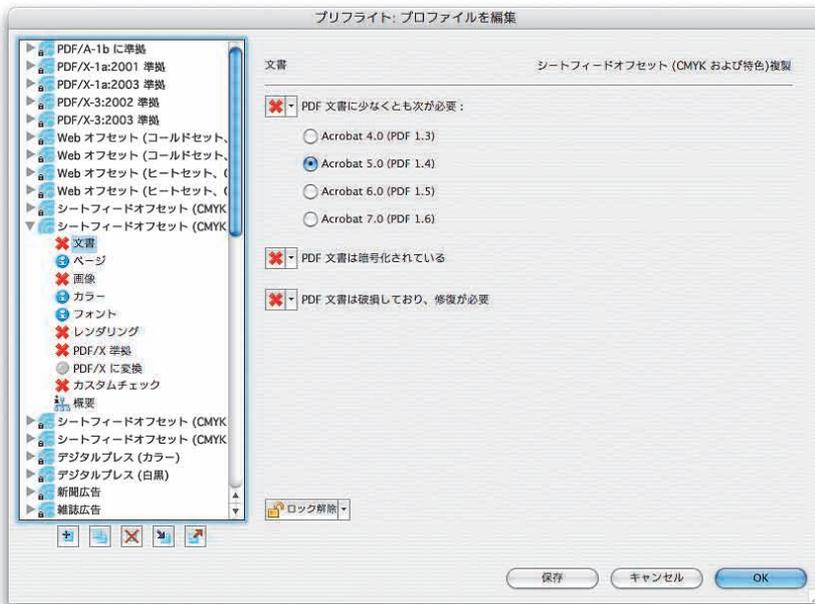
その下に「ロック解除」のボタンがあります。ボタンをクリックすると、ロックされている場合はロックが解除され、ロックされていない場合はロックされます。ただし、ロック機能はそのままで編集付加というだけです。完全にプロファイルを編集できないようにするには、「プロファイルをパスワードで保護」しなければなりません。

「プリフライトプロファイルを編集する」では、次のようなカテゴリで簡単に編集できるようになっています。ここで設定したものは、詳細編集の規則に反映されますが、詳細で作成した条件が、この編集ウィンドウに反映されるわけではありません。

- 文書
- ページ
- 画像
- カラー
- フォント
- レンダリング
- PDF/X に準拠
- PDF/X に変換
- カスタムチェック
- 概要

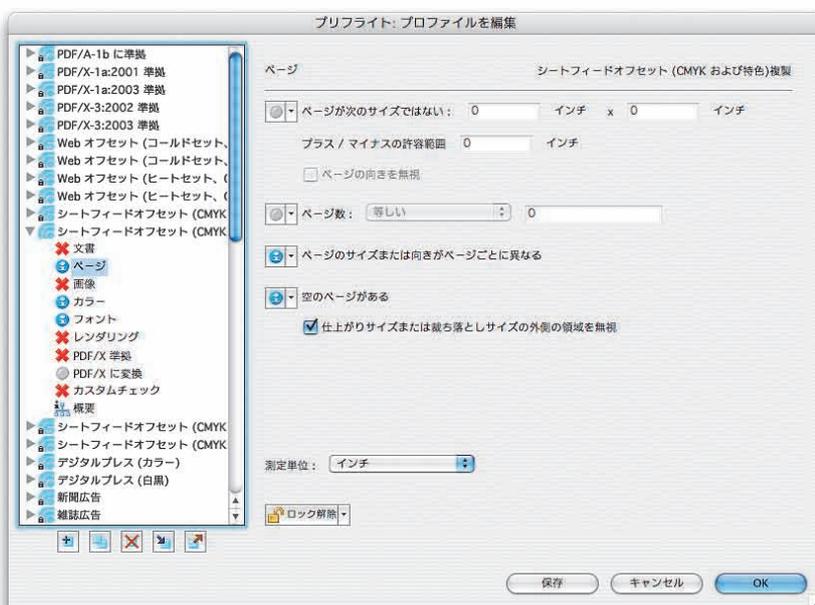
[文書] ウィンドウでは、まず、PDF のバージョンを指定します。PDF のセキュリティと PDF 文書の破損を調べています。PDF の破損は、プリフライト条件にある文書グループにある [プロパティ] の「壊れている」で調べています。具体的にどのように壊れていると判断しているかとは判別できません。

プリフライト編集で [文書] ウィンドウを開く



[ページ] ウィンドウでは、ページのサイズの制限やページ数をチェックします。[ページのサイズまたは向きがページごとに異なる] は、文書グループの「すべてのページの向きとサイズが小同じ」というプロパティで解析しています。[空のページがある] は「ページの仕上がりサイズ／裁ち落としサイズ内が空である」という条件に対応しています。また、「仕上がりサイズまたは裁ち落としサイズの外側の領域を無視」するようになっています。

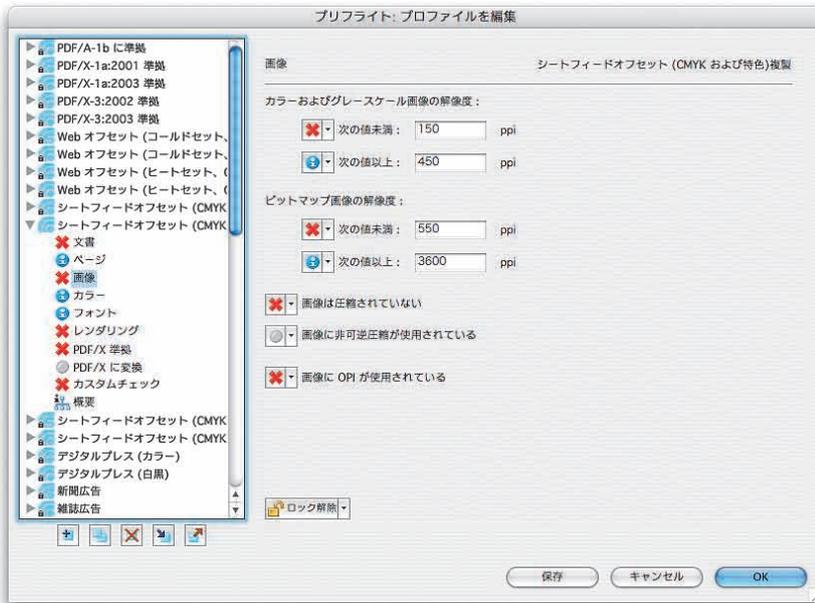
プリフライト編集で [ページ] ウィンドウを開く



一般的にPDFのページサイズやページ数をプリフライトで解析することはまれでしょう。[ページのサイズまたは向きがページごとに異なる] ものは、あとからバインドしたPDFだと考えられます。そういうPDFは印刷用ではない可能性が高いでしょう。

[画像] ウィンドウでは、画像の解像度制限を簡単に指定できます。最低解像度と最高解像度を個別に指定できます。ビットマップ画像は、モノクロ二値の画像のことです。[画像は圧縮されていない] というのは、画像グループの「圧縮されていない」という条件で解析するものです。通常、PDF 化するときには画像は何らかの方法で圧縮されています。JPEG 圧縮を調べるときは、[画像に非可逆圧縮が使用されている]を選択します。また、画像の OPI 情報もここでチェックできます。

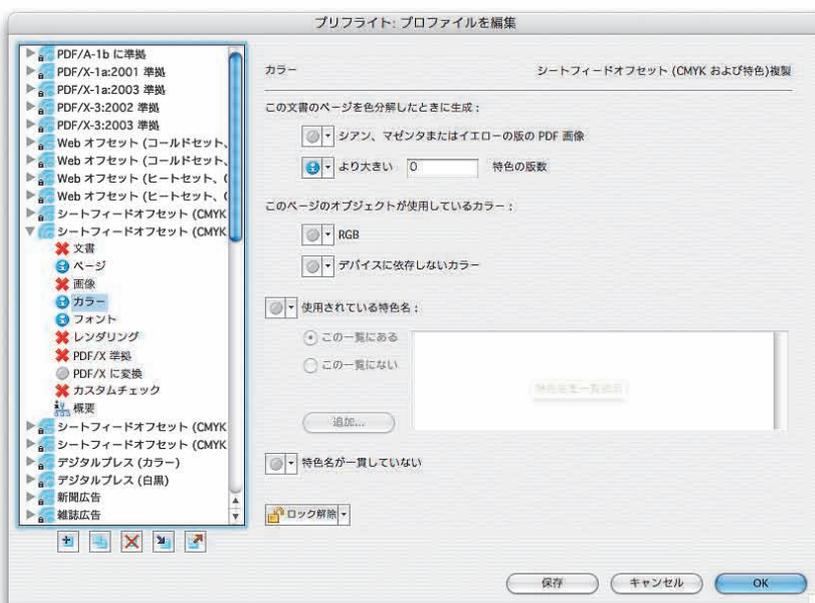
プリフライト編集で [画像] ウィンドウを開く



プリフライトの詳細編集でも、画像を解像度の上限と下限を設定した規則を作成できますが、かなり面倒です。画像の解像度はこの機能で行なう方がわかりやすく設定しやすくなっています。[画像は圧縮されていない] は、画像の圧縮も行わない PDF 作成ソフトでチェックするためのものでしょう。

[カラー] ウィンドウでは、色分解版とオブジェクトのカラー、特色を調べます。色分解版は[シアン、マゼンタまたはイエローの版の PDF 画像] をチェックします。[このページのオブジェクトが使用しているカラー] で RGB カラーやデバイスに依存しないカラー (Lab 値で変換できるカラー) をリストさせることができます。また、指定した特色をリストさせたり、特色名が一貫していないときにリストできます。

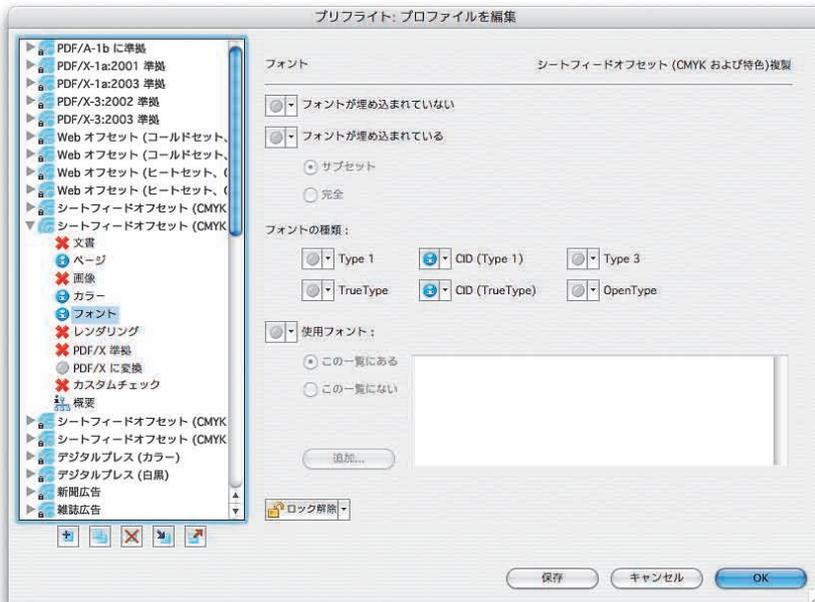
プリフライト編集で [カラー] ウィンドウを開く



[カラー] ウィンドウでは、「RGB」と「デバイスに依存しないカラー (キャリブレーションカラーのこと)」は調べることができますが、それ以外のグレースケールのみかどうかなどは調べることができません。

[フォント] ウィンドウでは、フォントの埋め込みの可否と、フォントの種類をリストできます。フォントが埋め込まれている場合は、「サブセット」か「完全埋め込み」かを指定できます。また、フォント名を指定して、そのフォントのみをリストさせることも可能です。

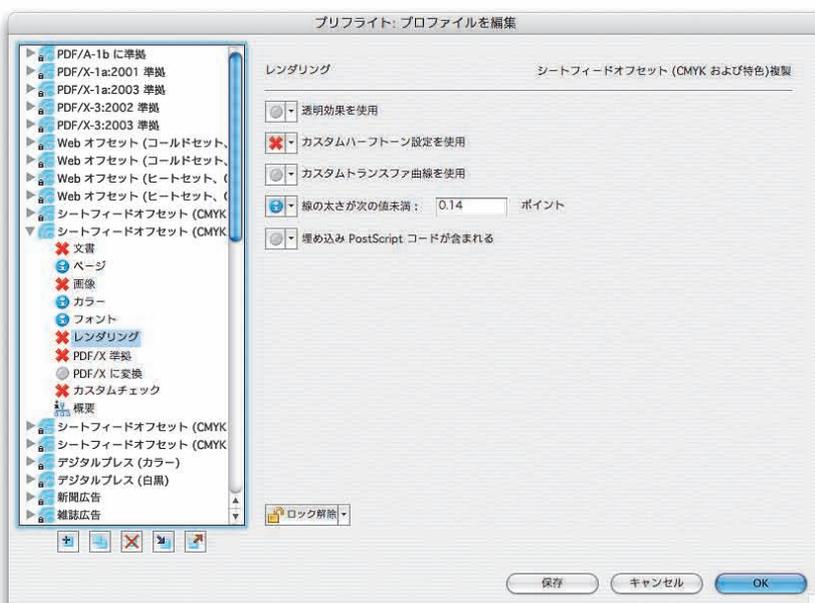
プリフライト編集で [フォント] ウィンドウを開く



デフォルトの「シートフィードオフセット」では、CID フォントと TrueType フォントを情報としてリストするようになっています。また、「フォントが埋め込まれていない」がエラーとして選択されていませんが、ここで作成せず詳細編集で「フォントが埋め込まれていない」規則を作成しています。詳細編集で作成した規則は簡易編集には反映されません。

[レンダリング] ウィンドウでは、透明効果、ハーフトーン情報、トランスファ関数、線の太さ、埋め込み PostScript をチェックします。[カスタムハーフトーン設定を使用]を選択すると、ハーフトーン辞書が含まれる場合をリストします。

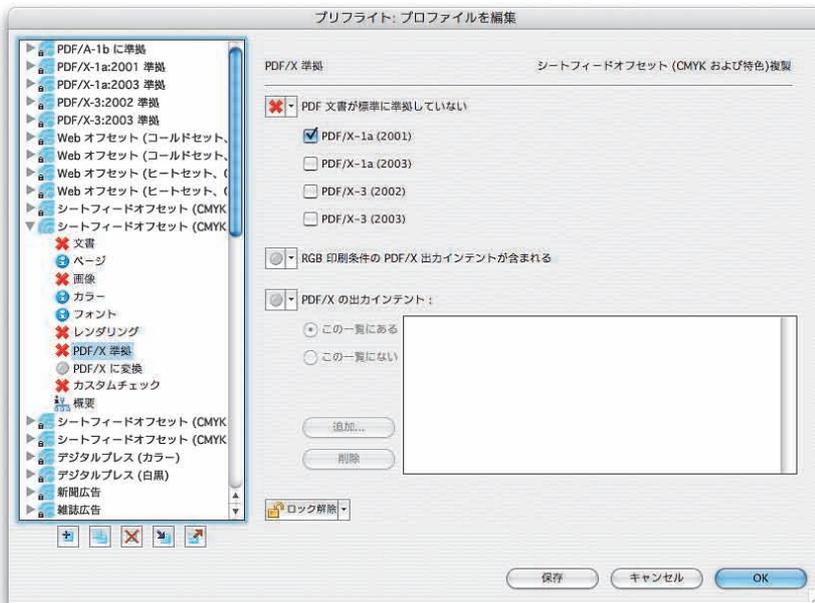
プリフライト編集で [レンダリング] ウィンドウを開く



[レンダリング] で便利な機能は、線の太さを指定するものですが、残念ながら、墨ベタの線、墨網の線、かけ合わせの線などを個別に指定することはできません。

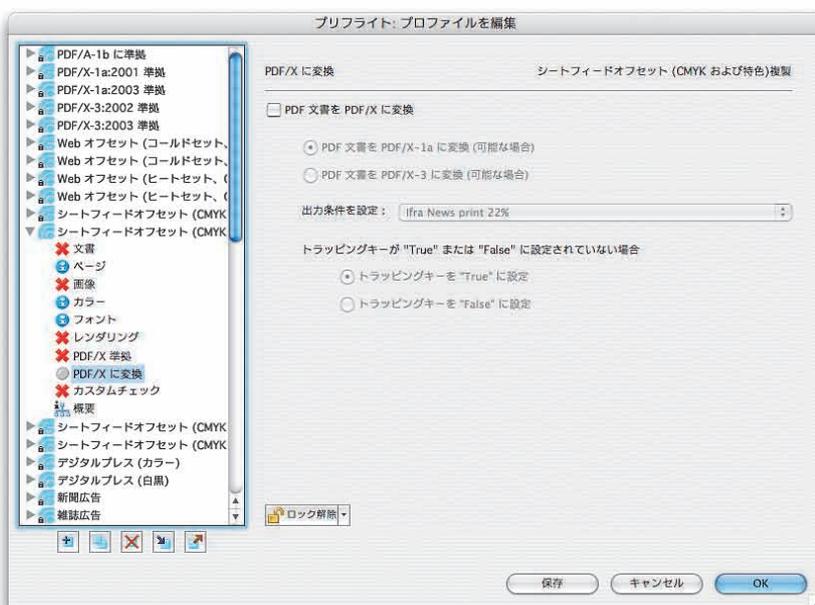
[PDF/X に準拠] ウィンドウでは、PDF/X の準拠レベルを指定します。また、出力インテントプロファイルに RGB のプロファイルが指定されている場合もリストできます。さらに、特定の出力インテントプロファイルを指定しているときもリスト可能です。

プリフライト編集で [PDF/X 準拠] ウィンドウを開く



[PDF/X に変換] はプリフライト解析機能ではなく、PDF/X に変換するための機能です。[PDF 文書を PDF/X に変換] を選択すると、プリフライトの PDF/X 作成機能が動作します。PDF/X-1a もしくは PDF/X-3 を選択し、出力インテントプロファイルを指定します。また、トラッピングの有無も指定します。

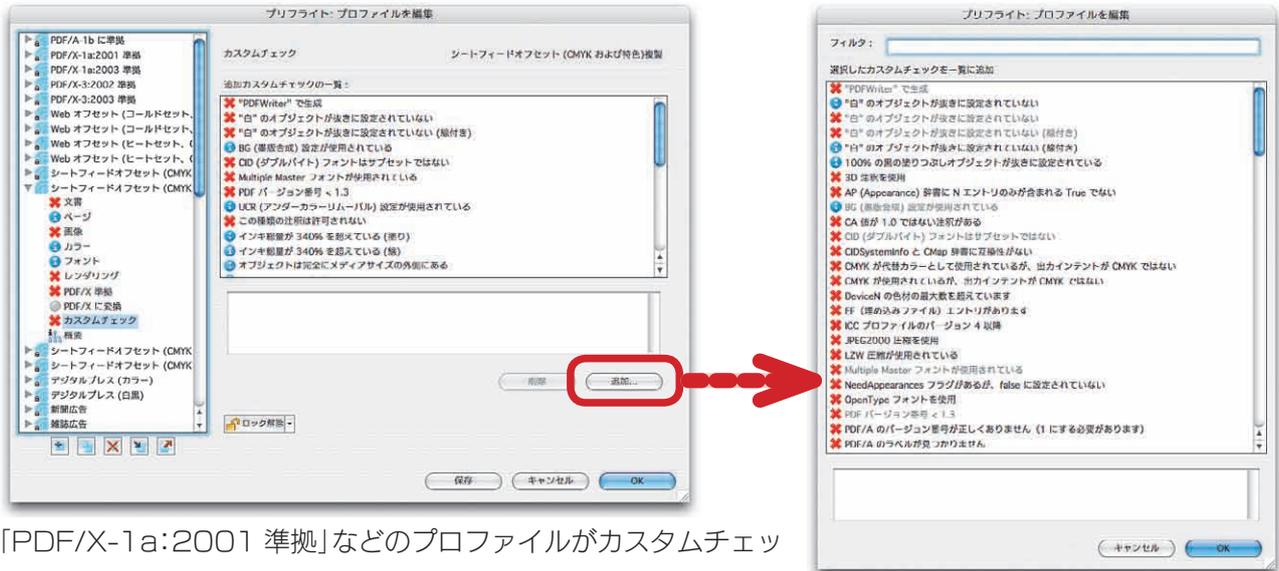
プリフライト編集で [PDF/X に変換] ウィンドウを開く



ここで PDF/X に変換するには、出力条件を先に作成しておく必要があります。PDF が PDF/X に準拠していない場合は、PDF/X には変換できません。

[カスタムチェック] は、プリフライト編集の各々のウィンドウで設定できない項目を設定します。ここでは追加ボタンを押して、あらかじめ作成したプリフライト規則を読み込みます。したがって、[カスタムチェック] の機能を使うためには、詳細編集にあるプリフライト規則が理解できないと使いこなせません。[プリフライトを編集] ウィンドウで設定したものと同じものを指定することができます。その場合は、同じプリフライト規則が重なってリストされます。

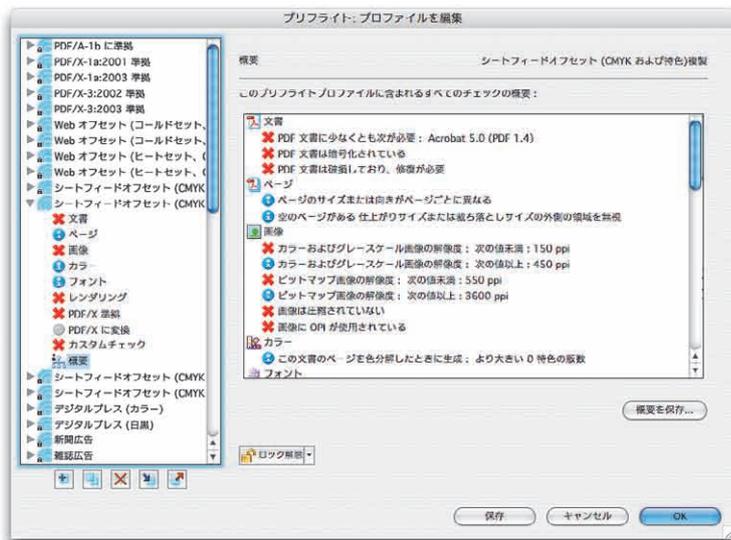
プリフライト編集で [カスタムチェック] ウィンドウを開く



[PDF/X-1a:2001 準拠]などのプロファイルがカスタムチェックに規則が含まれていないのは、デフォルトのPDF/X 準拠プロファイルの規則の編集が禁止されているからです。ここでリストされる規則は、詳細編集で編集可能なものになります。

[概要] は、プリフライト編集の内容を一覧するためのものです。

プリフライト編集で [概要] ウィンドウを開く



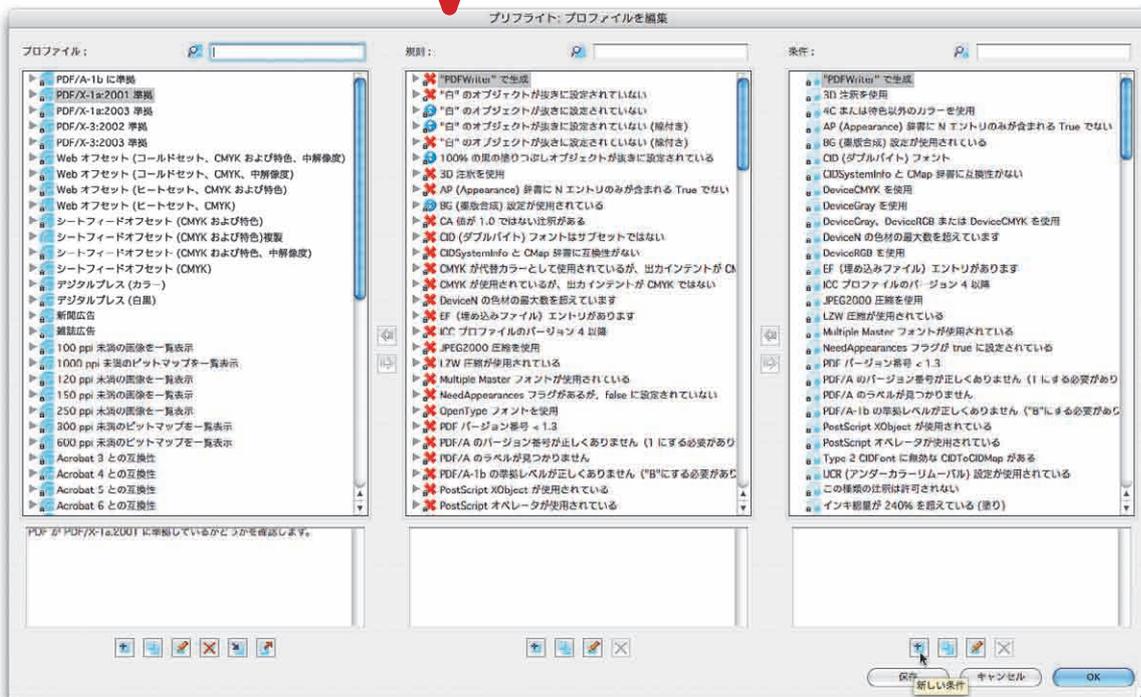
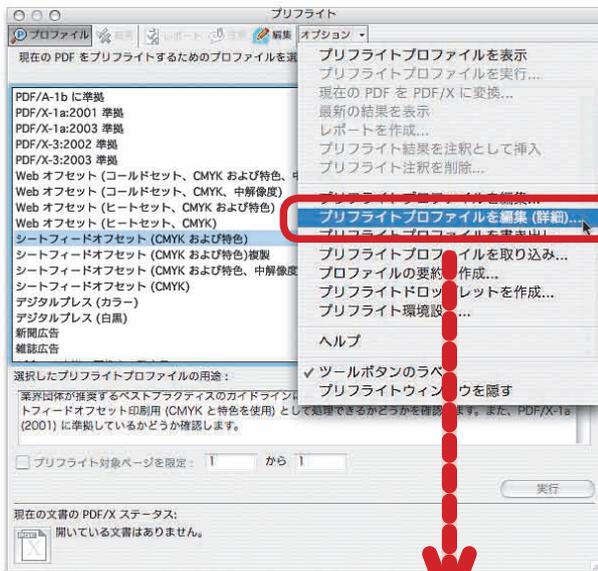
[プリフライトを編集] ウィンドウでは、手軽にプリフライトプロファイルを編集できるというメリットがありますが、より詳細なプリフライトを行なうためには、[カスタムチェック] が必要です。基本的な部分を [プリフライトを編集] で行い、[プリフライトを編集 (詳細)] でそれを補うプリフライト規則を作成して利用しましょう。

第一章 プリフライトの使い方と仕組み

プリフライトプロファイルを詳細に編集する

Acrobat のプリフライトプロファイルの構造は 3 つに分類できます。プリフライトプロファイル、プリフライト規則、プリフライト条件です。プリフライト条件が最小の構成単位です。プリフライト規則は、1 つのプリフライト条件もしくは複数のプリフライト条件を組み合わせ、and 検索したものです。プロファイルは規則を束ねたものです。

[プリフライトプロファイル編集 (詳細)] を開く



プリフライトウィンドウの [オプション] メニューから、[プリフライトプロファイル編集 (詳細)] を開くと、Acrobat 6.0 Pro のプリフライト編集と同じウィンドウが開きます。プリフライト規則のプロパティは 6.0 より追加されています。

プリフライトウィンドウの [オプション] から「プリフライトプロファイルを編集 (詳細)」を選択すると、[プロファイル] [規則] [条件] からなる [プリフライト:プロファイルを編集] ウィンドウが開きます。

詳細編集でプリフライトプロファイルを作成するには、まずプリフライト条件を作成し、その条件を規則に含めます。プリフライトするときは、規則が解析の単位となります。そして1つ以上の規則を含めてプロファイルを作成します。

詳細編集の基本は、プリフライト条件です。プリフライト条件は、20のグループに分類され

ICC カラースペース

OPI

カラー

テキスト

ハーフトーン

フォント

フォームフィールド

ページ

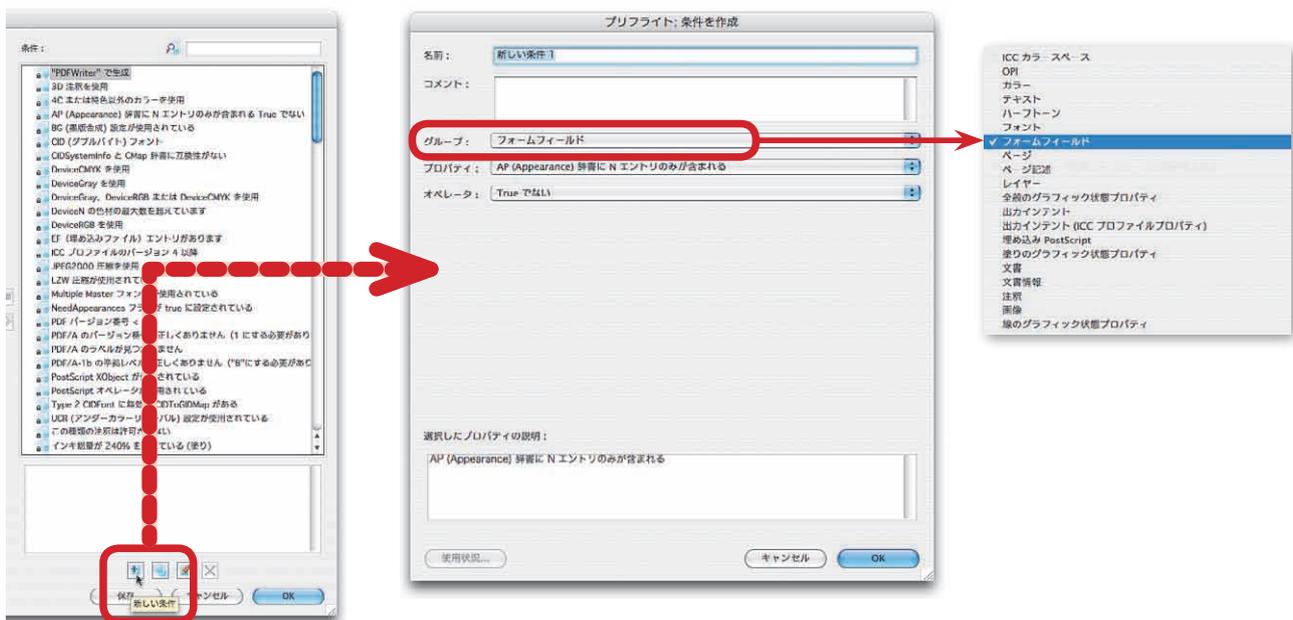
ページ記述

レイヤー

全般のグラフィック状態プロパティ

出カインセント

[プリフライトプロファイル編集 (詳細)] で新しい条件を作成する



プリフライトは、プリフライト条件を作成することから始まります。プリフライト条件は、20のグループからPDFの仕様を [条件] で「新しい条件」を作成します。1つもしくは1つ以上の条件を組み合わせ、プリフライト規則を作成します。

出カインテント (ICC プロファイルプロパティ)

埋め込み PostScript

塗りのグラフィック状態プロパティ

文書

文書情報

注釈

画像

線のグラフィック状態プロパティ

があります。

これらのグループに対して複数のプロパティが用意されていて、それらを選択し、オペレータ値を指定します。それでプリフライト条件ができあがります。これが、Acrobat のプリフライトの基本構造です。

プリフライト詳細編集の仕組みを具体的に見ていきましょう。たとえば、「シートフィードオフセット (CMYK および特色)」を開きます。その中に「“白” のオブジェクトが抜きに設定されていない」という規則があります。この規則は

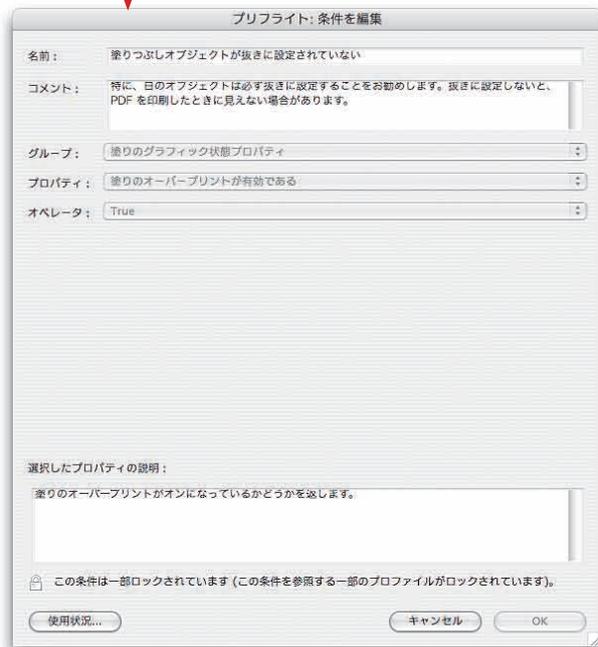
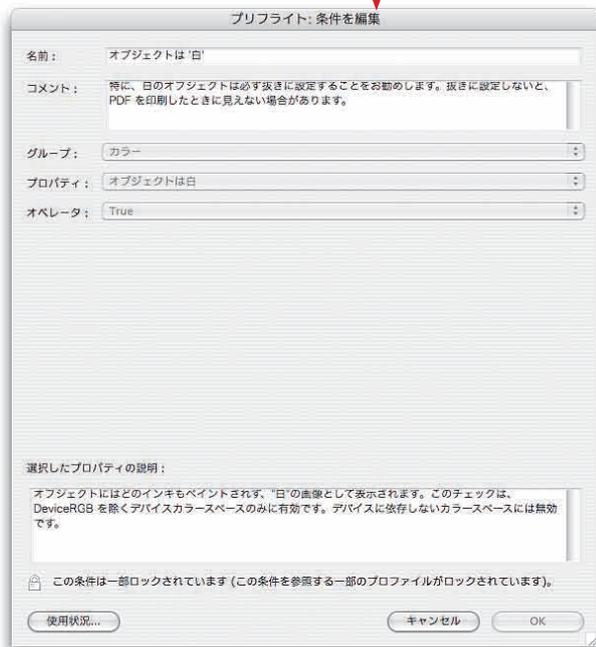
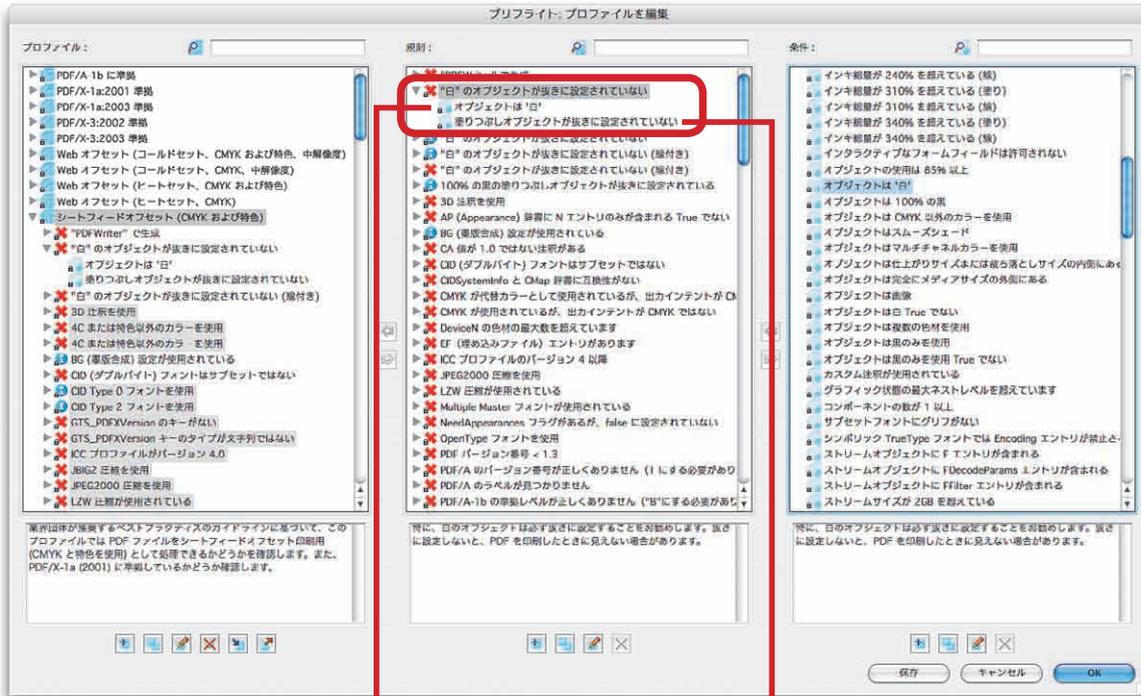
オブジェクトは “白”

塗りつぶしオブジェクトが抜きに設定されていない

という2つの条件から成り立っています。ペイント設定が白で、なおかつオーバープリント処理されていないものをリストするようになっています。「オブジェクトは “白”」という条件を開くと、カラーグループで「オブジェクトは白」というプロパティが選ばれています。そして、「塗りつぶしオブジェクトが抜きに設定されていない」では、塗りのグラフィック状態プロパティで「塗りのオーバープリントが有効である」になっています。

つまり、プリフライト規則で「オーバープリントが指定されていない白いオブジェクト」を調べるためには、2つの条件を組み合わせる必要があるのです。2つ以上の条件を組み合わせることで、より詳細なプリフライト解析が可能になっているのです。

「白」のオブジェクトが抜きに設定されていない」規則



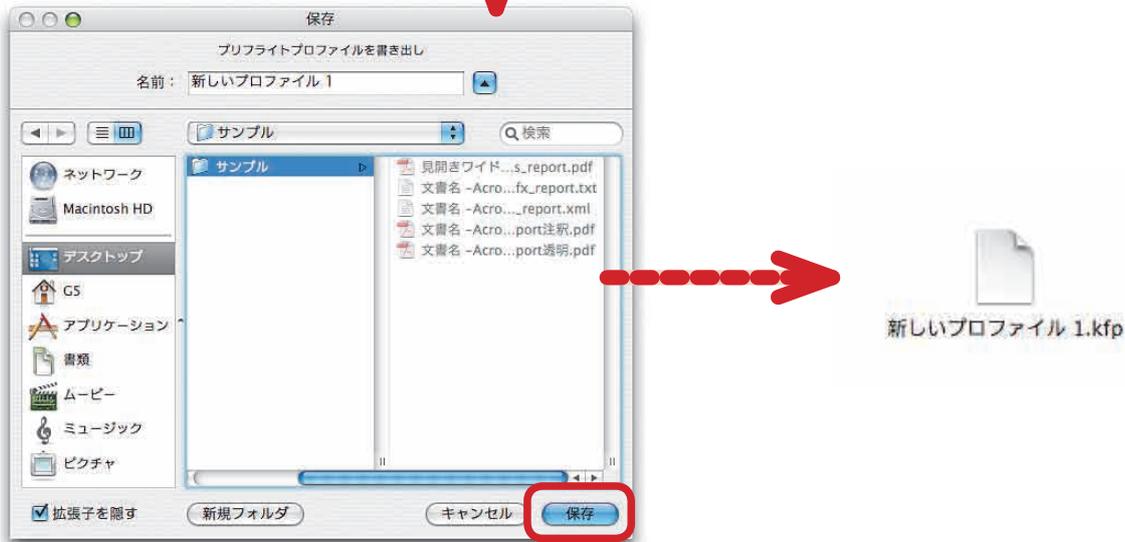
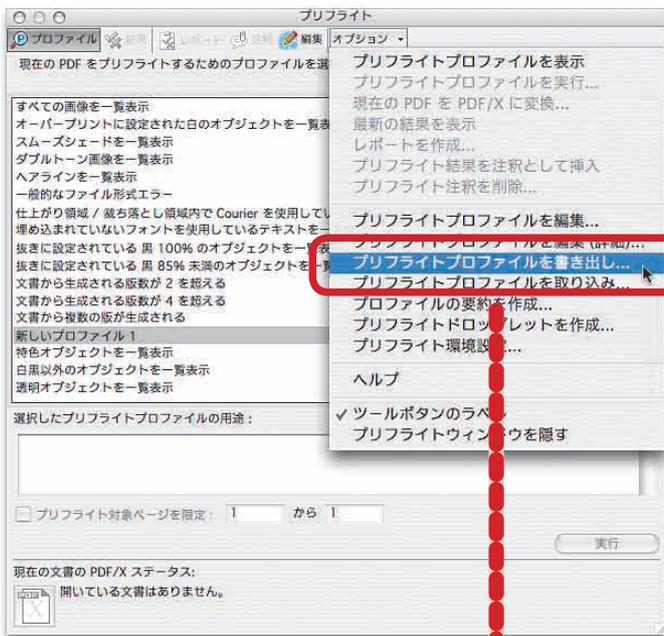
複数の条件を規則として組み合わせるときは、両方の条件を満たすものがプリフライトでリストされます。なお、カラーグループの「オブジェクトは「白」というプロパティは、6.0にはなかったものです。

第一章 プリフライトの使い方と仕組み

プリフライトプロファイルの書き出しと取り込み

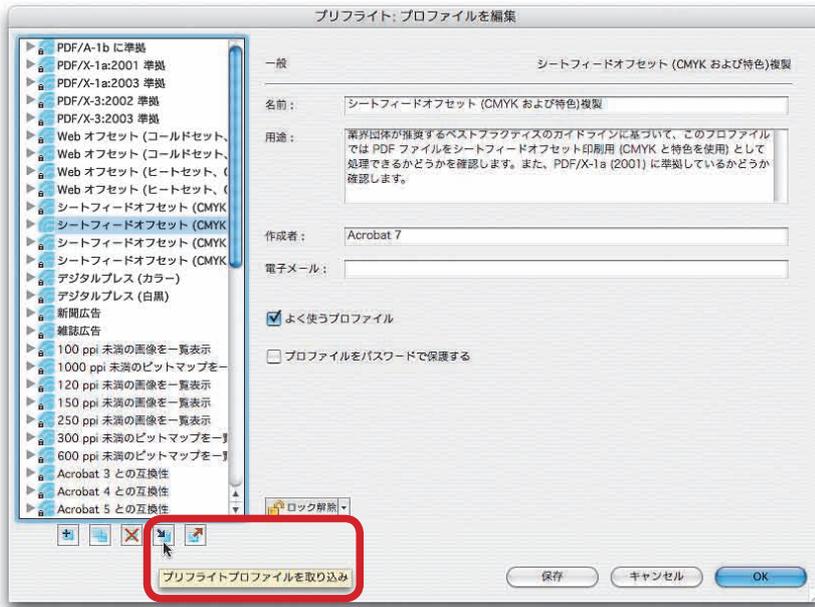
Acrobat では作成したプロフライトプロファイルを書き出すことができます。書き出したプロファイルは、別の Acrobat で読み込んで利用することが可能です。プロファイルの書き出しは、プリフライトウィンドウでプロファイルを選択して、オプションメニューから [プリフライトプロファイルを書き出し] を選択するか、プリフライト編集のウィンドウからでも可能です。

ウィンドウメニューからプリフライトプロファイルを書き出す



ウィンドウメニューから [プリフライトプロファイルを書き出す] を選択してプロファイルをファイルとして保存します。書き出されたファイルには、プロファイル名に「.kfp」という拡張子が追加されます。書き出されたプロファイルは、Acrobat 7.0 Pro で [プリフライトプロファイルを読み込む] を使って読み込むことができます。

プリフライトプロファイルの編集でもできるプロファイルの読み書き



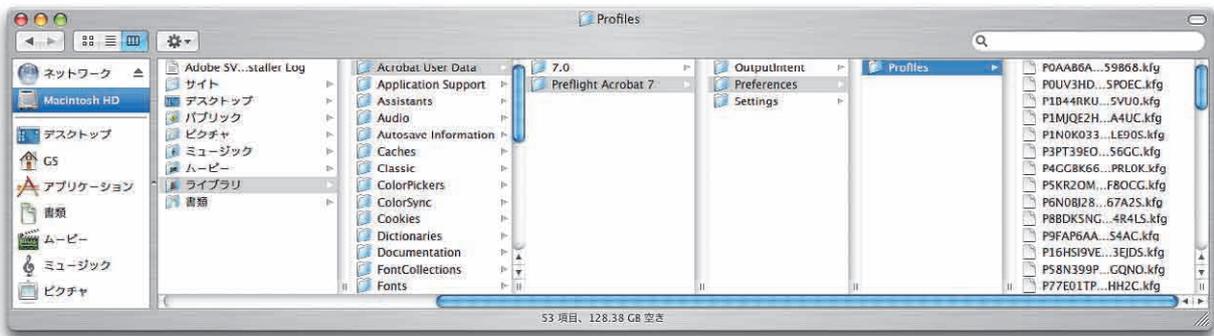
作成したプロファイルは、プロファイル編集のウィンドウからでも読み書きできます。ウィンドウの左下のボタンで書き出しと読み込みができます。詳細編集でも同じように書き出しと読み込みが可能です。

書き出されたプロファイルは、「.kfp」という拡張子のついたファイルになります。このファイルを「プリフライトプロファイルの取り込み」から、プリフライトに取り込むことができます。

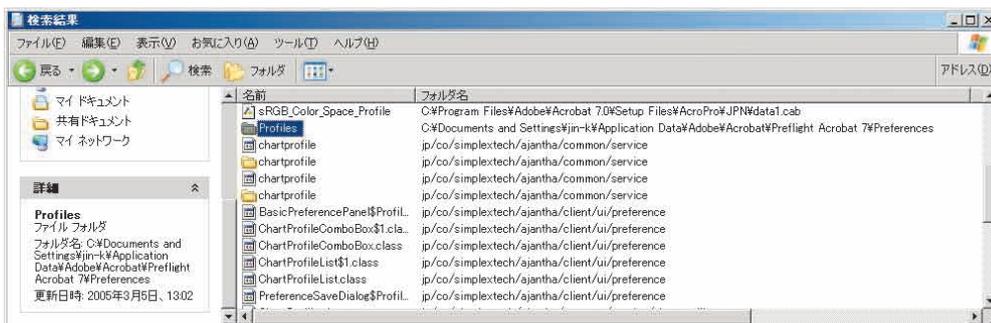
Acrobat のプリフライトプロファイルは、Mac OS X では、ユーザーディレクトリのライブラリフォルダ内にある「Preflight Acrobat 7」というフォルダ内に保存されます。Windows でもユーザーディレクトリ内にありますが、隠しファイルになっています。

プリフライトプロファイルファイルのディレクトリ

Mac OS X



Windows XP



いずれもユーザーディレクトリの「Preflight Acrobat 7」フォルダ内にあります。Windows XP では隠しファイルになっています。

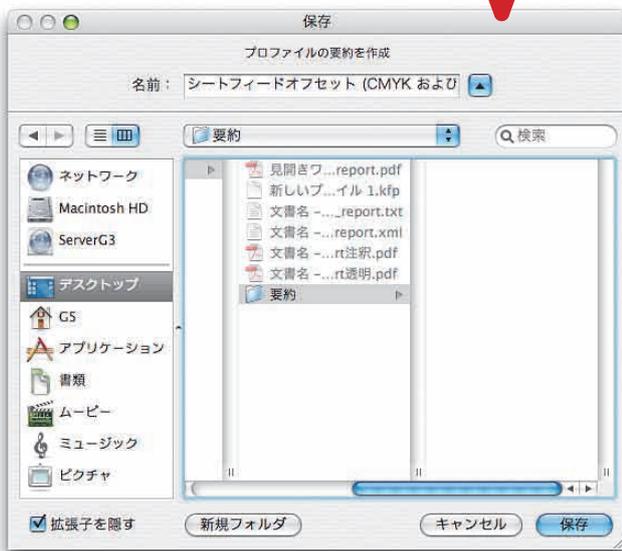
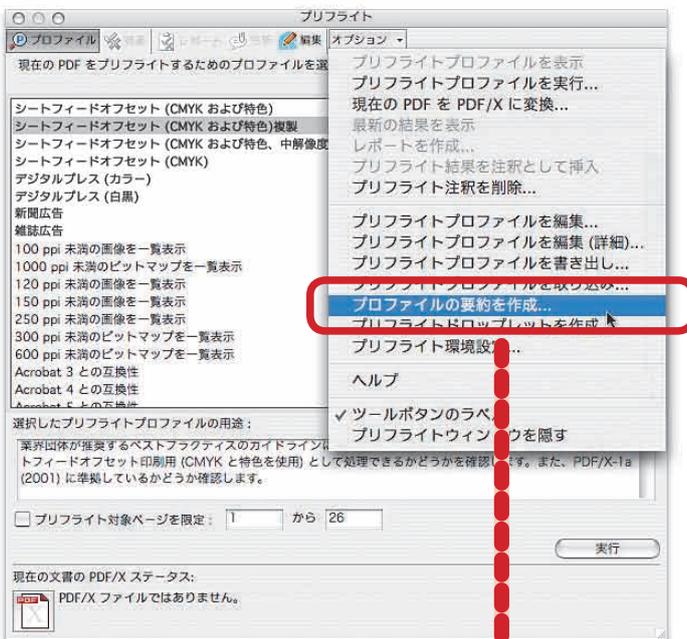
第一章 プリフライトの使い方と仕組み

プリフライトプロファイルの要約を作成する

プリフライトプロファイルの規則と条件を一覧したいときは、プロファイルの要約を作成します。要約はオプションメニューの「プロファイルの要約を作成する」を開いて、要約を記述した PDF を作成し保存します。

要約が記載された PDF は、A4 サイズで作成されます。「プロファイルの概要」としてプロファイルで使われているプリフライト規則と、その規則を構成する条件がリストされます。

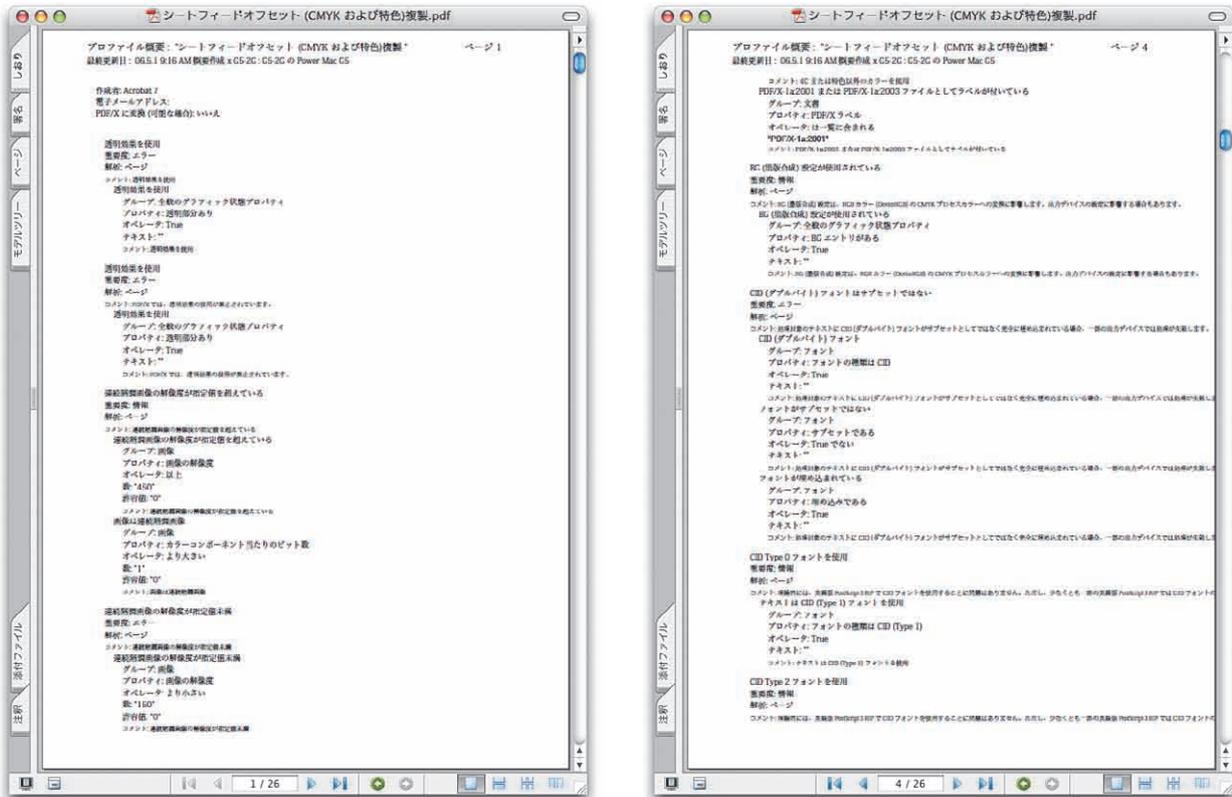
オプションメニューからプロファイルの要約を作成する



オプションメニューから「プロファイルの要約を作成」を選択します。選択したら、保存します。保存すると同時に要約が PDF として開きます。OS の用紙サイズを変更しても、書き出される PDF のページサイズは変わりません。

プリフライト規則では、規則名の下に「重要度」「解析」対象、規則に追記された「コメント」がリストされます。規則から一段下げてプリフライト条件の内容がリストされます。「グループ」「プロパティ」「オペレータ」、入力した「テキスト」が記載されます。また、条件に含まれているコメントもかかれています。

書き出された要約 PDF



要約の記載された PDF は、規則と条件を羅列します。また、コメントは 1 行でかかれるため、A4 に収まらないテキストは、改行されないままになります。

第一章 プリフライトの使い方と仕組み

プリフライトドロップレットを作成する

ドロップレットは、PDF をファイルを重ねるだけで自動的にプリフライトを処理するためのファイルです。[オプションメニュー] から「プリフライトドロップレットを作成」を選択して、ドロップレットファイルを作成します。

[ドロップレット設定] では、まず、ドロップレットを作成するプロファイルを選択します。次に、プリフライトが成功した場合と、エラーになった場合で、適用した PDF の処理を指定します。

成功した場合は、PDF を「サクセスフォルダ」に移動します。移動するファイルは

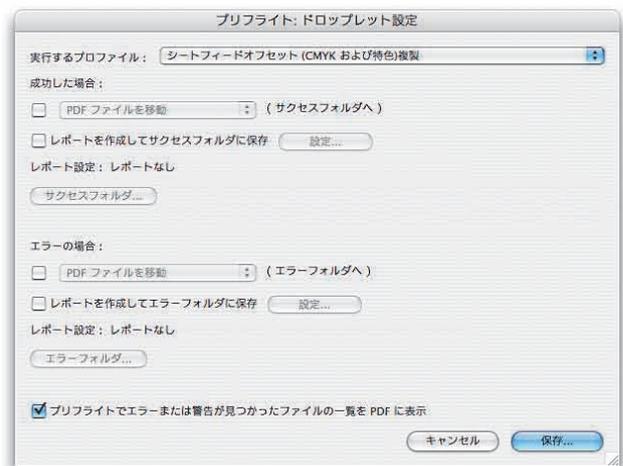
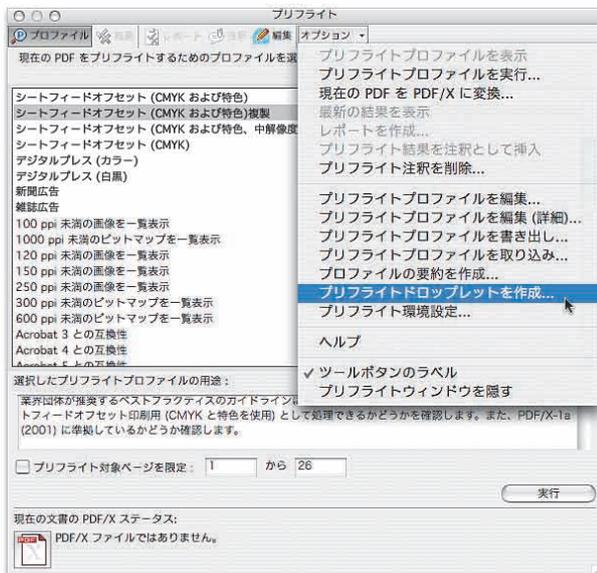
PDF ファイルをコピー

PDF ファイルを移動

PDF ファイルのエイリアスを保持

から選択します。サクセスフォルダに移動するには、[サクセスフォルダ] でファイルを保存するフォルダを指定します。エラーの場合も同じように [エラーフォルダ] を指定します。

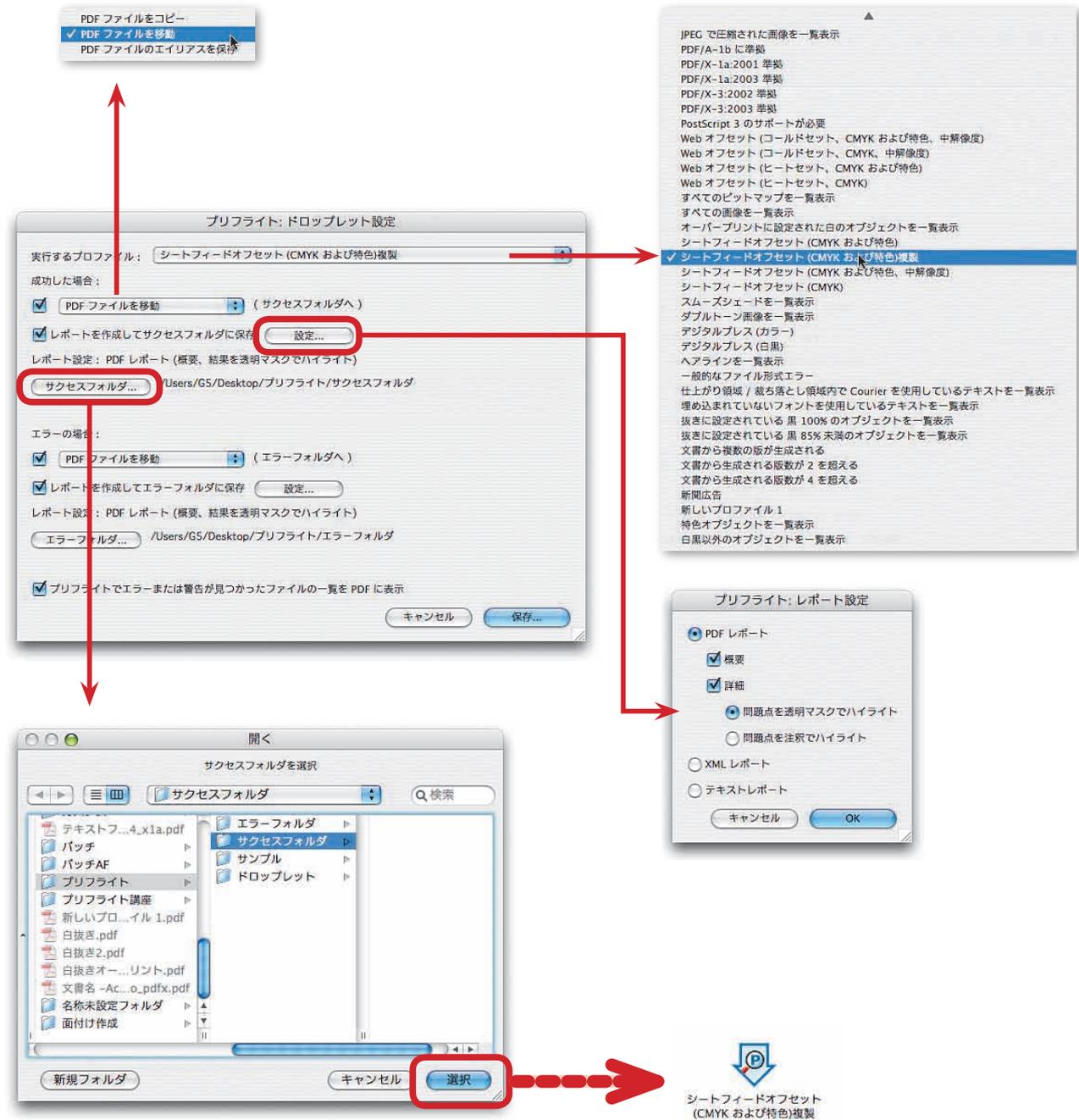
プリフライトドロップレットを作成する



ウィンドウメニューから「プリフライトドロップレットを作成」を選択すると、[プリフライト:ドロップレット設定] ウィンドウが開きます。ドロップレットの作成では、サクセスフォルダとエラーフォルダの設定が必要です。

また、[レポートを作成してサクセスフォルダに保存] をチェックすると、プリフライトレポートが同時に作成され指定したフォルダに保存されます。レポートは、PDF レポート、XML レポート、テキストレポートから選択できます。

[プリフライト:ドロップレット設定] の設定



[プリフライト:ドロップレット設定] では、[実行するプロファイル] を選択し、PDF ファイルの処理方法、サクセスフォルダとエラーフォルダの設定は不可欠です。レポートの作成は任意です。プリフライトするときは、ドロップレットファイルに PDF をドラッグします。

第一章 プリフライトの使い方と仕組み

プリフライト環境設定で出カインテントをカスタマイズ

オプションメニューで開く [プリフライト：環境設定] には、一般タブと出カインテントタブがあります。一般タブでは、プリフライト結果の表示の方法を指定します。出カインテントタブでは、プリフライトで PDF/X 化するときの出カインテントを作成します。

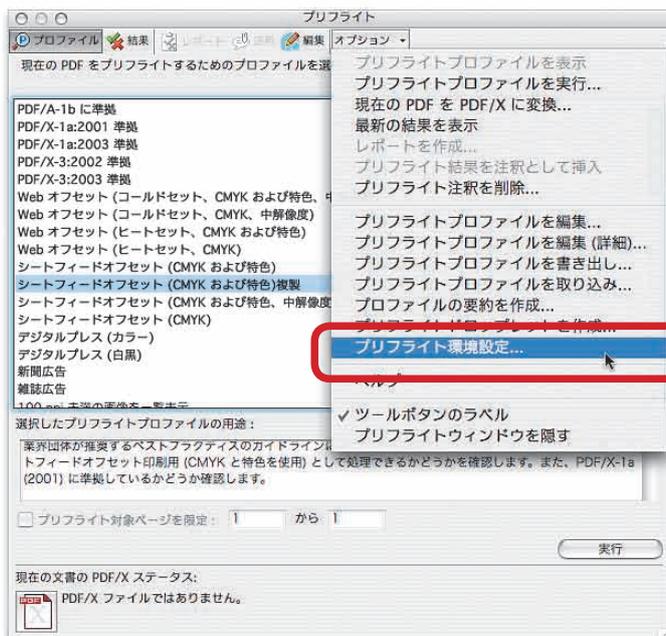
一般タブの [チェック結果表示の最大数] では、1 つのプリフライト規則で詳細表示されるエラーの数を制限するものです。チェックされるオブジェクトが多いとき、すべてをリストすると煩雑になるので、ページ毎に表示結果数を指定します。

[ページごと (直接)] は、プリフライト結果で規則を開いたときに詳細表示されるオブジェクトの数です。デフォルトでは「10」になっているので、10 以上あっても、11 個目からはリストされません。

11 個目からは「ページごと (“その他の該当箇所” の下)」に含まれます。デフォルトでは「20」になっているので、[ページごと (直接)] が「10」の場合、21 から 40 までの結果がリストされます。これらは、「▼」マークをクリックしなければ表示させることができません。

[文書全体] は、1 つの規則で結果表示する最大数を指定します。

プリフライト環境設定を開く



オプションメニューから [プリフライト環境設定] を開きます。[プリフライト環境設定] では、プリフライト結果の詳細表示の方法を指定する一般タブと、PDF/X に変換するとき指定する出カインテントをカスタマイズできます。

[結果表示の詳細レベル] では、表示結果の詳細レベルを指定するものです。

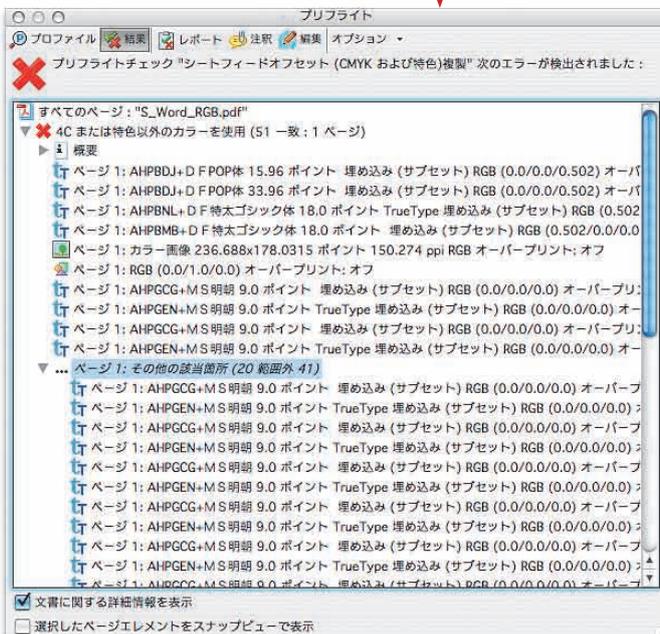
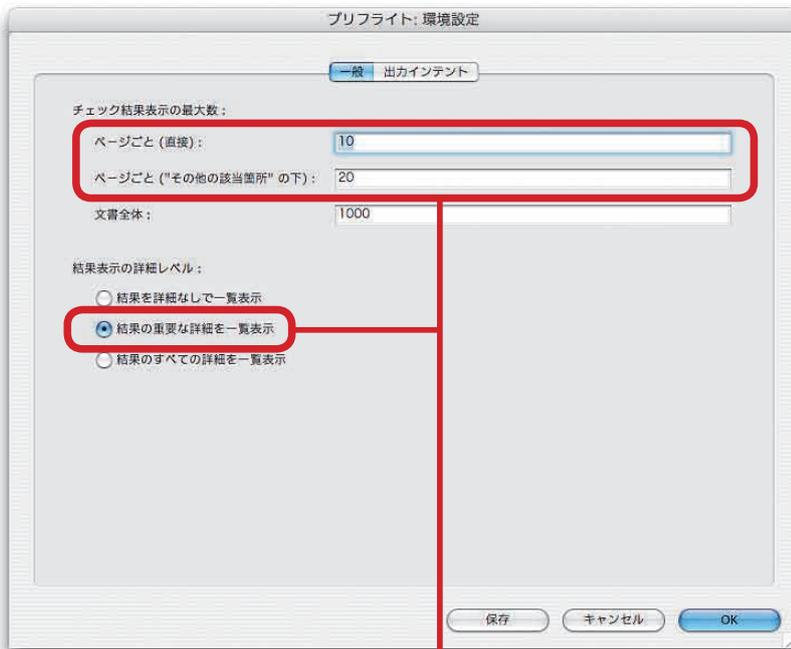
結果を詳細なしで一覧表示

結果の重要な詳細を一覧表示

結果のすべての詳細を一覧表示

から選択します。デフォルトは「結果の重要な詳細を一覧表示」が選択されています。「結果を詳細なしで一覧表示」にすると、リストはエラーとなる規則名のみになり、エラーとしてヒットしたオブジェクトはリストされません。「結果の重要な詳細を一覧表示」ではヒットしたリストが [チェック結果表示の最大数] の指定で表示されます。

一般タブで詳細表示するプリフライト結果を指定する

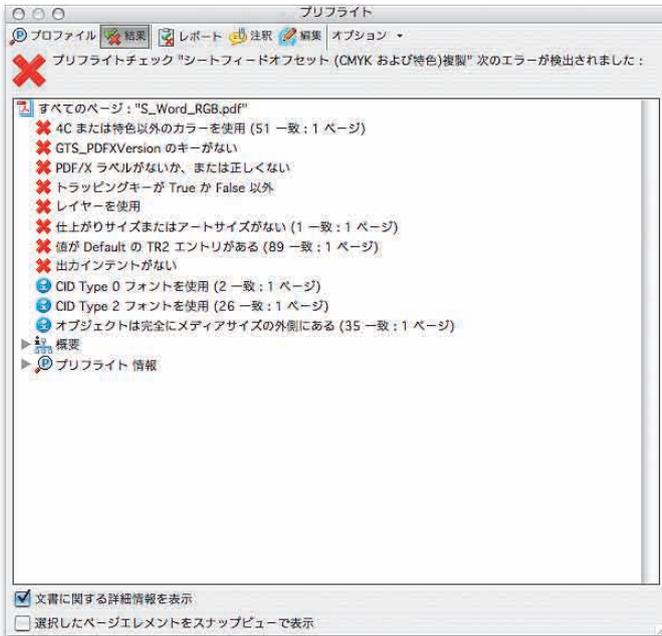


デフォルトでは「結果の重要な詳細を一覧表示」するようになっており、[チェック結果表示の最大数] のエラーをリストするようになっています。プリフライト結果を開くと、[ページごと (直接)] と「ページごと (“その他の該当箇所” の下)」で指定した数だけエラーがリストされます。

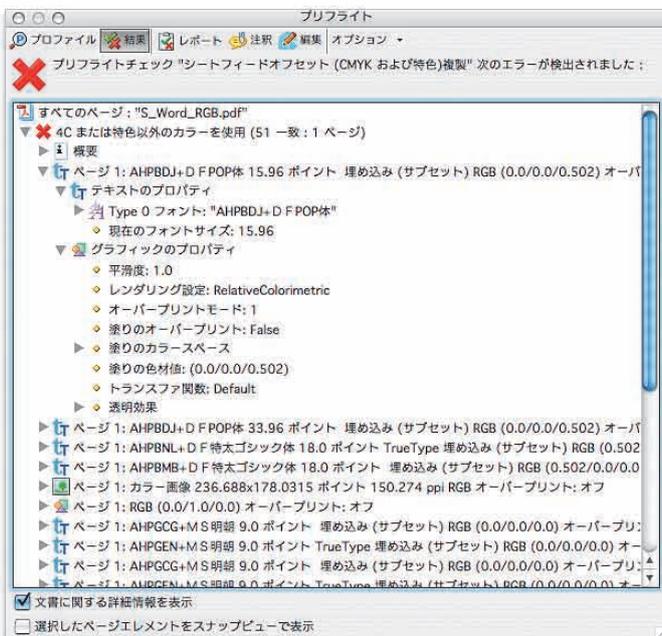
「結果のすべての詳細を一覧表示」を選択すると、詳細表示されたオブジェクトの詳細な情報が表示できるようになります。詳しい情報を確認するときには、「結果のすべての詳細を一覧表示」を選択します。

「結果を詳細なしで一覧表示」と「結果のすべての詳細を一覧表示」

結果を詳細なしで一覧表示



結果のすべての詳細を一覧表示



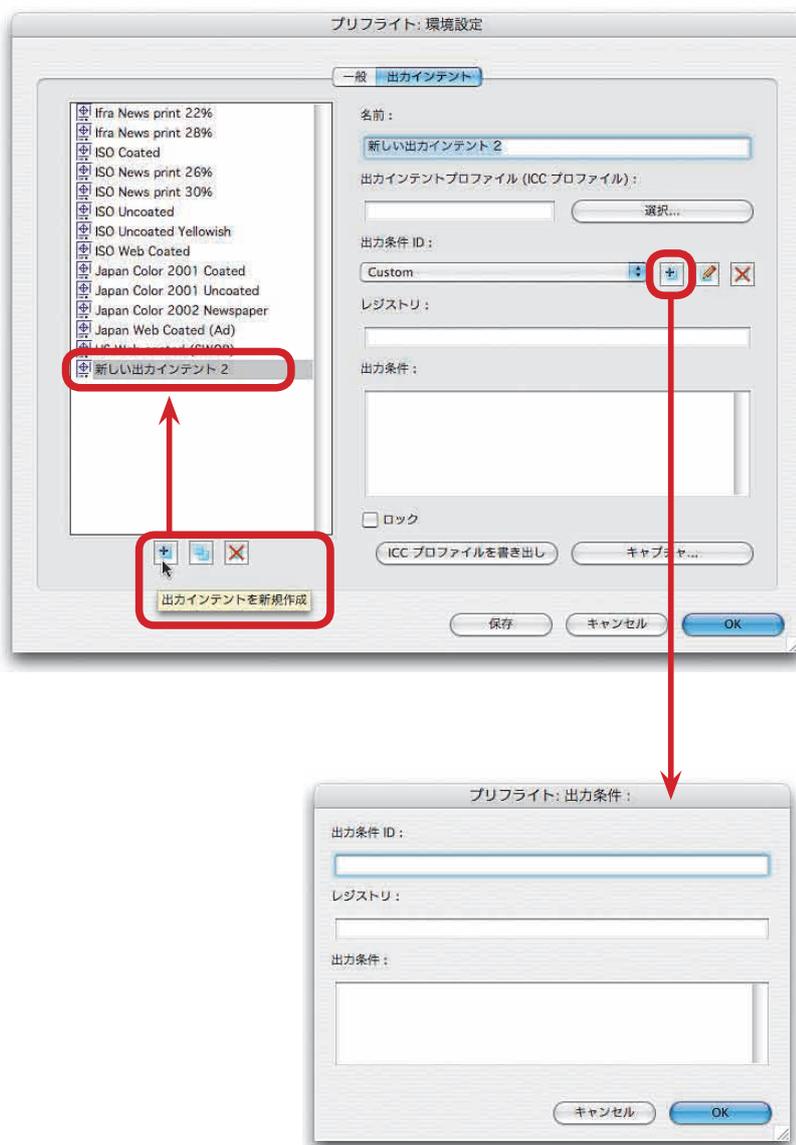
「結果を詳細なしで一覧表示」すると、エラーリストのみとなり、エラー部分の情報がリストされません。「結果のすべての詳細を一覧表示」すると、エラー部分のリストでさらに詳細な情報を確認できるようになります。

出力インテントタブでは、PDF/X に変換するときの出力インテントを設定します。デフォルトで 14 種類の出力インテントがあります。日本仕様のものは、4 つです。ここでは新しく出力インテントを作成するときに設定します。

設定方法は、ウィンドウの右下より [出力インテントを新規作成] を選択します。名前を入力し、出力インテントプロファイルを [選択] します。[出力条件 ID] は新規に作成することもできます。

また、出力インテントの含まれる ICC プロファイルを [ICC プロファイルを書き出し] で書き出すことができます。[キャプチャ] を選択して PDF/X ファイルを選択すると、PDF/X ファイルに含まれた出力インテント情報を、出力インテントタブに取り込むことができます。

インテントタブで出力条件 ID を作成する



ウィンドウの左下より「出力インテントを新規作成」を選択します。新規に出力インテントを作成すると、[出力条件 ID] を追加できるようになります。[出力条件 ID] は、[レジストリ] と [出力条件] をセットして、名前を付けたものです。あらかじめ [出力条件 ID] を作成しておく、その都度 [レジストリ] と [出力条件] を入力する必要がありません。

これがわかれば PDF 出力で困らない Acrobat 7.0 Pro プリフライト徹底解析講座 (サンプル)

発行 2006年6月6日 初版発行

著者 上高地 仁

発行人 田中 清

発行所 有限会社 インクナブラ

〒540-0025 大阪市中央区徳井町 2-2-11 LM 東本町第三 405 号

TEL:06-6966-4468

FAX:06-6966-4469

©2006 by Jin Kamikochi

本書の内容の一部もしくは全部を著作権法の定める範囲を超え、有限会社インクナブラおよび著者に無断で複製、複写、転載することとはご遠慮下さい。

本書の内容に関するお問い合わせもしくは質問は、Eメール (incun@incunabula.co.jp) もしくは文書で、小社までお問い合わせください。
